NIE
エヌ アイ イー
教育に新聞を

２０２３年度
大分県ＮＩＥ
実践報告書

大分県ＮＩＥ推進協議会

目　　次

≪実践報告≫

チャレンジＮＩＥ　～楽しみながら新聞を身近に～
中津市立小楠小学校　教諭　岩男　拓哉・・・・・２

楽しく取り組むＮＩＥ　～全校を挙げての実践～
大分市立城南小学校　教諭　大津　友香・・・・・６

社会的事象を自分事として捉え、取り出した情報をもとに自分の考えを構築・再構築し、表現できる児童の育成を目指して
佐伯市立八幡小学校　教諭　高野　誠太朗・・・・１０

「新聞で学ぶ学校」づくり　～学校一丸！日常化の取り組みを通して～
竹田市立竹田南部中学校　教諭　佐藤　美登里・・・・１４

自分の意見を理由や根拠を添えて発表できる生徒の育成
日田市立前津江中学校　教諭　吉永　奏・・・・１８

令和５年度ＮＩＥ実践報告　別府市立中部中学校　校長　佐藤　裕一
司書　山本　恭子・・・・２２

進路学習に活かすＮＩＥ
私立大分高等学校　教諭　・・・・２６

新聞を開き、未来を拓く　～新聞を通して社会を知り、主体的に探究する生徒の育成に向けて～
大分県立大分舞鶴高等学校　教諭　西　さおり・・・・３０

≪2023年度大分県ＮＩＥ実践指定校≫≪2023年度大分県ＮＩＥ推進協議会の活動≫・・・・・３４

≪ＮＩＥ実践研究会とＮＩＥ子ども会議≫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

≪大分県ＮＩＥ推進協議会　会則≫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６

≪2023年度大分県ＮＩＥ推進協議会役員等≫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

【おことわり】この報告書に記載されている所属・肩書は、2023 年度当時のものです。

チャレンジNIE

～楽しみながら新聞を身近に～

中津市立小楠小学校　教諭　岩男 拓哉

１．はじめに

本校の教育目標は、「未知の課題に挑み　仲間と協働して解決しようとするたくましい子どもの育成　～人間力・総合力～ 」である。それを受け、「筋道を立てて考え表現する力の育成」を重点目標に掲げ、研究を深めている。

今年度からNIEの実践指定を受け、「やるからには子どもたちにとって有意義な NIE 活動にしたい」という思いがある。しかし、学校では様々な活動を行っており、新しい取り組みを増やすことの難しさがあった。そのため、今年度は「これならやれる」という NIE 活動に挑戦し、まだ NIE に取り組んでいない他の学校が「これなら私たちの学校でも取り組めそう」という提案・お手本になっていきたいと考えた。このように、NIEに“挑戦”していく１年にしたいという思いから、「チャレンジNIE！」というテーマを設定した。

以下に本年度の実践を紹介する。

２．学校としての取り組み

学校としての取り組みとして、〈目的の共通理解〉、〈新聞環境の整備〉、〈NIE レク〉、〈学年１実践以上〉に取り組んだ。

〈目的の共通理解〉

NIEに取り組む意義を伝えるために、〈NIEの目的❶～❹〉を作成した。NIEに関する本やパンフレット、研修会で学んだことを４つにまとめ、１学期の職員会議で、共通理解を行った。また、そのような新聞の素晴らしさを発達段階に応じて児童にも伝えるようにした。

〈NIEの目的❶～❹〉

❶社会の出来事に、興味・関心を持たせる。

新聞を学校や家庭での学習に活用することで、社会への関心を高め自分ごととして考えを深めさせることができる。

❷読解力・語彙力・文章力・表現力を育成する。

好きな本だけではなく、新聞を通して色々な種類の文章を多く読み、文章に慣れさせる。優れた新聞の文章を読むことで、文章の構成や記述等の文章力を育てる。

❸情報活用力を育成する。

新聞の中から必要な情報を取捨選択し、活用する力を育てる。(物語や説明文とは異なる、非連続型テキストの読解力を育成する。)

❹新聞を身近にする。

多くの児童が新聞を読んでいない実態がある。NIEを通して、新聞に親しんでほしい。

〈新聞環境の整備〉

① 「NIE掲示板」・「新聞コーナー」の設置

職員室前の児童の移動が多い場所に、NIE掲示板と新聞コーナーを設置した。「NIE掲示板」には、子どもが興味を持ちやすそうな時事や生き物、クイズ、占いなどが載った新聞を掲示した。「新聞コーナー」には、新聞社ごとにその日の新聞を並べ、広げて置くことで児童が注目しやすくなるように工夫した。

② 「今日の一面」の掲示

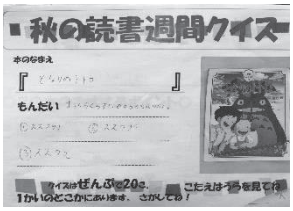
５・６年生の廊下に、毎日「今日の一面」を掲示した。『朝日小学生新聞』と『大分合同新聞』２つの一面が見えるように掲示し、日常的に新聞が読めるようにした。その記事を立ち止まって読む児童や学習に活用する児童がいた。また、教員が一面について話題に挙げたり、写真に撮ってロイロノートで配布したりして、新聞が掲示されているだけにならないように工夫した。さらに、『朝日小学生新聞』を８日分掲示し、「今日の一面」を見逃した時でも約１週間分は読めるようにした。「色々な情報が知れて面白い」と、朝の時間や休み時間に新聞を手に取って読む児童の姿が見られた。

③ 「新聞セット」の配布と新聞ストック

NIE は、新聞を読んで楽しむだけでなく、遊んで楽しむこと（NIE レク）も大切だと考え、各学級に児童人数分の新聞を用意した。教室に自由に使ってよい新聞を用意することで、児童の身近に新聞がある環境を整えることができた。また、各新聞社の新聞を週ごとにまとめ、ストックした。図書室前に「新聞ご自由にどうぞ倉庫」を準備し、教員がいつでも取り出せるようにした。

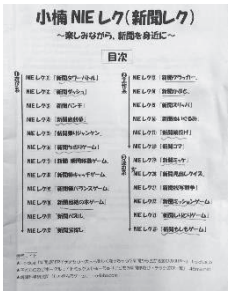
④ 図書委員会クイズの実施（２学期）

図書委員会が企画した「秋の読書週間クイズ」で、新聞に紹介されていた本のタイトルや内容に関するクイズに取り組んだ。学校の１階の様々な場所にクイズ問題が掲示され、図書室に訪れる児童の人数も増えていた。図書室にも新聞コーナーを設けたり、「新聞にのった本です」のマークをつけたりして、新聞と図書を組み合わせた活動にすることができた。クイズを通して、楽しみながら本や新聞を読む児童の姿が多く見られた。



〈NIE レク〉

全校児童を対象に、新聞を読む頻度についての「新聞アンケート」を行った。その結果、「ほとんど読まない・全く読まない」と回答した児童の割合は８２％だった。新聞をとっていない家庭が多く、児童の身近に新聞が存在していない実態があった。少しでも新聞を身近にするために、まずは、「新聞は楽しいもの」という感覚を大切にしたいと考えた。日本新聞協会が発行している『これならできる！新聞活用 NIE 入門ガイド』にも、「まずはゲーム感覚で楽しく新聞と触れ合おう」とあり、楽しみながら新聞を読んだり、遊んだりすることが大切だと感じた。そこで、「小楠 NIE レク」の冊子を作成し、全学級に配布した。学年に応じて、遊び・工作・読むの新聞を使ったレクに取り組み、新聞で楽しむことができている。



〈学年１実践（以上）〉

「チャレンジNIE」のテーマのもと、各学年１実践以上、新聞を活用した活動に挑戦した。普段、新聞を読む児童が少ないため、新聞を配布する時に「やったー」と喜ぶ児童の姿が印象的だった。児童の反応や教員の声から、どの学年も楽しみながら実践をすることができた。

１年「新聞乗りジャンケン(親子レク)」
　「〇字探し」「写真探し」など
２年「新聞おりゲーム」「新聞ちぎりゲーム」
　「くしゅくしゅぎゅ(図工)」
　「新聞ファッションショー(図工)」など
３年「新聞基地ごっこ」「新聞運動(体育)」
　「お仕事調べ新聞(国語)」など
４年「ごみ・水 社会見学新聞(社会)」
　「干潟新聞(総合)」
　「新聞条件作文(課題)」など
５年「夏休み新聞」「新聞パーティー」
　「新聞討論(国語)」「新聞読書(国語)」
　「NIE プリ(課題)」など
６年「まちなみ探検新聞（総合)」
　「社会歴史新聞（社会)」
　「NIE プリ(課題)」「新聞スピーチ」など

３．実践事例（各学年の実践）

〈１年生〉

★習った漢字を見つけよう。(国語)

NIE ワークシートの記事に書かれた漢字を赤で囲み、その漢字を書き出させた。見つけた漢字の数を競い合わせることで楽しく漢字を学び、新聞に触れることできた。最後には、新聞記事の内容を紹介し、興味を持って聞く児童の姿が見られた。

〈２年生〉

★お気にりの写真を見つけよう。(国語)

１人１部新聞を配り、お気に入りの写真を選んでタブレットで写真を撮らせた。その写真をロイロノートで提出させて、お気に入りの写真についての交流を行った。進んで新聞を開き、楽しく新聞に触れることができた。

〈３年生〉

★報告する文章を書こう。(国語)
　仕事の工夫見つけたよ「お仕事調べ新聞」

国語の報告する文章を書く単元で、新聞を使った報告文に挑戦した。教師モデルや大まかな枠を準備したことで、3 年生でも新聞を書き上げることができた。特に、ロイロノートを使用したことで、字を書くことの抵抗が減り、読みやすい新聞の報告文につながった。

お仕事調べ新聞

調理人の仕事とは？

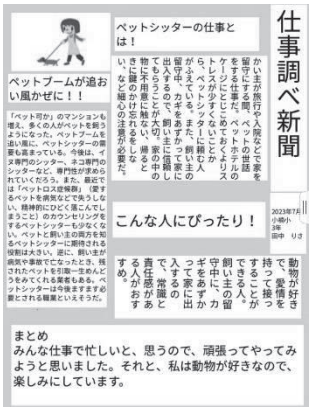
レストランや食どう、りょうてい、ホテル、りょ館、学校、びょういん、社いん食どうなど、かてい外のさまざまな外食しせつで、お客さんにていきょうする料理を作るのが調理人の仕事だそうです。

こんな人にピッタリ！

おいしいものがだいすきで、自分でも作ってみたいと思う人。そういくふうのできる人がおすすめ。

まとめ
調理人は、お客さんにていきょうする料理を作るのが調理人の仕事だと分かりました。
私も美味しいものが大好きで自分で作って見たいので調理人になれるのかなと思いました。

他の仕事も調べていきたいです。



仕事調べ新聞

ペットシッターの仕事とは！

かいぬしが旅行や入院などで家を留守にする間、ペットの世話をする仕事だ。ペットホテルのケージにとじこめておくよりストレスが少ないことから、飼い主の留守中、カギをあずかって家に出入りするので、飼い主に信頼してもらうことが大切。家の中の物に無神経に触れない、場所を荒らさないなどの細心の注意が必要だ。

ペットブームが追おい風かぜに！！

「ペット可か」のマンションも増え、多くの人がペットを飼うようになった。ペットブームを追い風に、ペットシッターの需要も高まっている。今後は、イヌ専門のシッター、ネコ専門のシッターなど、専門性が求められていくだろう。また、最近では「ペットロス症候群」（愛するペットを病気などで失うしょう状、精神的にひどく落こんしてしまうこと）のカウンセリングをするペットシッターも少なくない。ペットと飼い主の両方を知るペットシッターに期待される役割は大きい。逆に、飼い主が病気や事故でなくなったとき、残されたペットを引き一生めんどうをみてくれる業者もある。ペットシッターは今後ますます必要とされる職業といえそうだ。

こんな人にぴったり！

動物が好きで、愛情を持って接することができる人。飼いまの留守中にあずかってギをあずかって家に出入りする。常に責任感がある人がおすすめ。

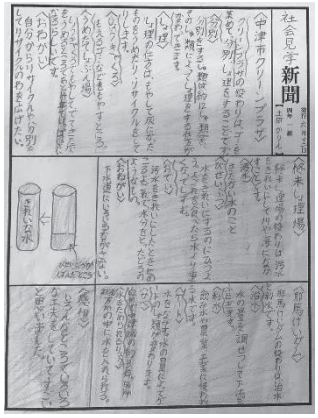
まとめ
みんな仕事で忙しいと、思うので、頑張ってやってみようと思いました。それと、私は動物が好きなので、楽しみにしています。

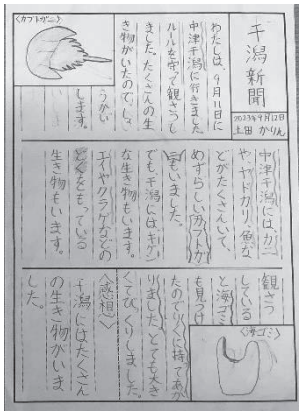
〈４年生〉

★新聞を作ろう。(国語)
　社会見学新聞（社会)・干潟新聞（総合)

国語の新聞を書く単元で、新聞には記事の内容を短くまとめた見出しや、記事によって大きさが異なること、写真や図表が用いられていることなど、新聞の特徴について学んだ。

国語で学んだ新聞の書き方を社会や総合の学習にも活かし、教科横断的な学びにすることができた。「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」の課題解決的な学習をまとめる１つの手立てとして、新聞は有効だった。

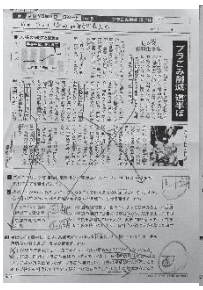




〈５年生〉

★国語でNIE実践 ＆ NIEプリ（課題）

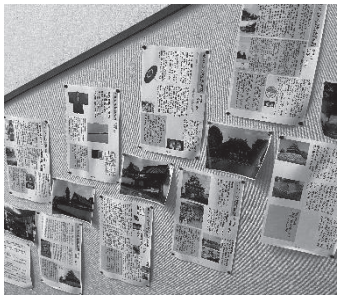
５年生の国語では新聞と関連させることができる内容が多くあった。新聞で漢語・和語・外来語を探す活動、見出し・リード文・本文の「逆三角形の構成」を学ぶ活動、新聞の記事を基に討論する活動、メディアとの関わり方を学ぶ『想像力のスイッチを入れよう』の単元など、多くの授業で NIE を実践することができた。「この活動で新聞が使えるかも」の視点が加わったことで、より実践の幅が広がった。また、資料活用文の『固有種が教えてくれること』の単元と関連させて、毎週水曜日の課題として「よむ YOMU ワークシート（NIE プリ）」に取り組んだ。初めは誤答が多かったが、記事と資料をよく読み、「根拠見つけ作戦」や「消去法作戦」で取り組ませると正答率が上がっていった。週に１回だけでも、学力向上や社会の出来事を知る良い機会になっている。



〈６年生〉

★まちなみ探検新聞を作ろう。（総合）

総合的な学習の時間に、地元中津の良さを知るために「まちなみ探検」を行った。自分たちが学習したことを多くの人に見てもらうためにはどうすればよいかを話し合い、「まちなみ探検新聞」を作成することに決まった。６年生は、週末課題で新聞の要約や感想の交流を行っており、新聞を身近に感じている児童が多い。一人ひとりが見出しを工夫したり、写真を効果的に活用したりして、興味を惹く新聞を作成することができた。



４．児童生徒の変化や感想、反省点や課題

年度当初、NIE の実践を始めた時に、児童に新聞についてのインタビューをしたことがある。多くの子どもたちが「新聞は大人が読むイメージ」ということを話していた。新聞が嫌いではないが子どもが読む習慣がないことが新聞離れを引き起こしていると感じた。

しかし、本年度から NIE を難しく考えずに挑戦すること、楽しみながら新聞を活用することに取り組んできたことで、新聞を身近にすることができた。「新聞を使って色々な遊びができて楽しかった。」「新聞には色々な記事が載っていて凄い。」など、NIE に対して前向きな児童の姿が見られている。

今後も「楽しみながら新聞を身近に」の考えを大切にしながら、「点を線にした NIE の実践」を行っていきたい。NIE にチャレンジする段階から、課題である見通しや継続性、話し合うことを大事にして実践を続けていきたいと思う。

楽しく取り組むNIE

～全校を挙げての実践～

大分市立城南小学校　教諭　大津 友香

1. はじめに

本校の教育目標は、「主体的に学び豊かな心をもちたくましく行動できる子どもの育成」である。これを受け、「自分の考えをもち、伝え合うことのできる子どもの育成」をテーマに掲げ、研究を行っている。昨年度NIEの実践指定を受け、新聞を利用して調べたことや考えたことを伝え合う活動を通して、子どもたちの思考を広げたり、社会や地域についての理解を深めたりすることをめざして取り組みを進めてきた。今年度は以下のように全校で実践している。

＜今年度の取り組み＞

① 「はなまるタイム」木曜 朝8:20～8:35
隔週で学年の状況に応じNIEに取り組む

② 教科の中で活用（例）
国語…新聞づくり、言葉集め
図工…新聞を使った図画工作活動
社会・総合…調べ学習

2. 本年度の実践について

① 新聞に親しむための環境整備

4年生の手洗い場の横に「小学生新聞閲覧コーナー」を、5年生・6年生それぞれの集会室前に「新聞閲覧コーナー」を設置した。今日の新聞が1番上になるように、新聞社ごとに今週の分を机上に並べた。使用頻度の高い場所に閲覧コーナーを設置することで、日常的に新聞を目にすることができた。また、閲覧コーナーの前面には、社会で注目されている事柄などの記事を集めた掲示を行った。

② 各学年の実践

＜1年生＞

○新聞を使った図画工作活動

「兜作り」

新聞を正方形に切り兜作りをした。先生の説明を聞き、体を大きく使いながら楽しく折ることができた。また、折り紙で作るのとは違い、被れる大きさの兜ができるため、完成した後も楽しむことができた。

○新聞を使った清掃活動

窓の掃除に新聞紙を使用した。新聞に載っている写真やイラストを見て、「これ見たことある。」など、友だちと話す姿が見られた。また、たくさんの文字の中から自分の読める字を探し、一生懸命読もうとする様子も見られた。新聞と触れ合うことで、子どもたちは載っていることを自然と楽しんでいた。

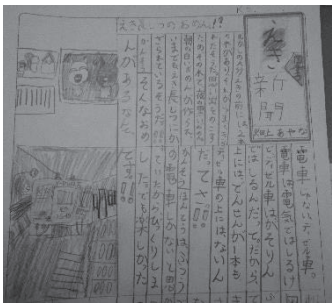
＜2年生＞

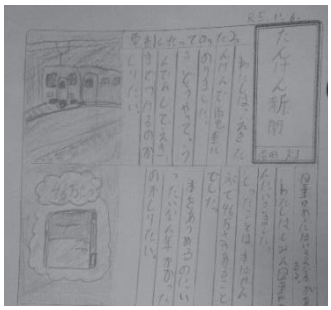
○新聞を使った図画工作活動

「新聞で変身」

新聞紙を筒にしたり、丸めたり、穴を空けてかぶったりと、楽しく作っていた。作業中に、「これは、高崎山の説明をしてくれた菅本さんだ。」と言いに来る子どもがいた。高崎山の出前授業に来てくださった菅本さんが、高崎山のサルのことを紹介する記事に気が付き読んでいた。作業をしながら、子どもたちは新聞の写真をよく見て、知っている情報をキャッチしていることが伺えた。

○見学新聞作り





生活科の町探検の後に、発見したことを新聞にまとめた。大分駅の駅長室にあるお面の由来や、大分市民図書館の蔵書数など、自分が知らせたいと思ったことを強調しながら書くことができた。伝わりやすいように新聞の名前を工夫したりイラストを描いたりするなど読み手が意識できていた。

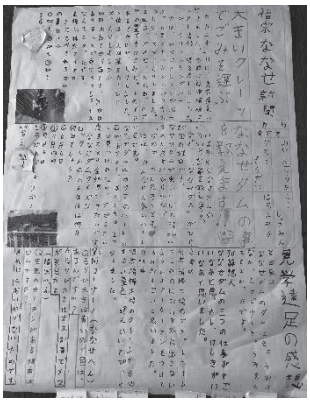
＜3 年生＞

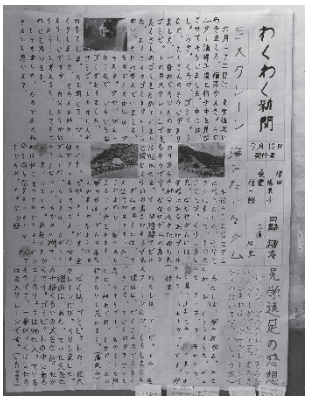
○見学新聞作り

社会科の学習で消防署と牛乳工場の見学に行って学んだことを班ごとに新聞にまとめた。防火衣を着て感じたことや、働く人の思いなどを記事にし、読む人が興味をもつような見出しにすることを意識して取り組んだ。写真やイラストを使って班ごとに個性のある新聞が完成した。授業参観で発表し、保護者にも学習内容を知ってもらえるよい機会になった。

＜4 年生＞

○見学遠足新聞作り



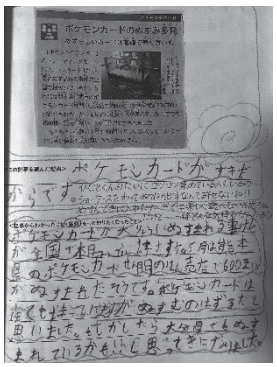


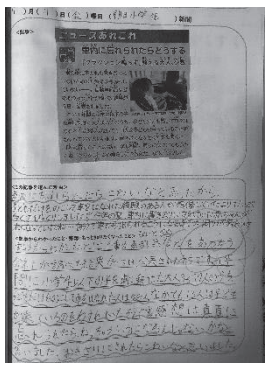
6 月下旬に福宗環境センター清掃工場とななせダムを見学した。取材してわかったことや、国語の「新聞を作ろう～事実をわかりやすく報告しよう～」で学習したことを意識しながら、班で 1 枚の新聞にまとめた。小学生新聞を日常的に目にしていたこともあり、目を引く見出しにこだわる姿が見られた。

○小学生新聞を使った 1 分間スピーチ

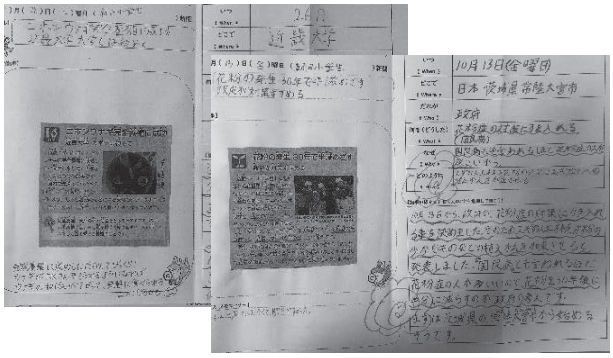
(1) 班ごとに朝日小学生新聞の「ニュースあれこれ」から気になる記事を選び、切り抜いてワークシートへ貼る。
(2) 記事から 5W1H を書き抜き、大切なことが抜け落ちないように要約する。
(3) わかったこと・感想を書く。
(4) 発表し、聞いた感想や気になったことを伝え合う。

＜1 学期＞





＜2 学期以降＞



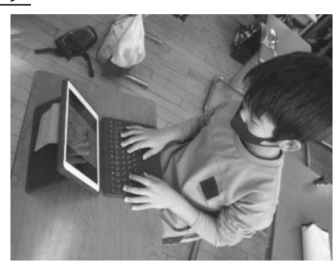
1学期は記事の要約に苦戦していたため、NIE全国大会松山大会で見たポスター発表を参考に、5W1Hを書き抜いてから要約するようにした。そうすることで内容が重複したり大切な部分が抜け落ちたりすることが減り、わかりやすい要約が書けるようになった。また、書くことが苦手な子どもたちの抵抗感も減らすことができた。子どもたちが見つけてきた「二ホンウナギ完全養殖に成功」という記事と、国語の「ウナギのなぞを追って」という教材が結びつき、研究者の努力や日本の技術の高さがわかり、学習が深まった。

＜5年生＞

○コラムの視写

「天声子ども語」の視写に取り組んだ。初めの頃は全部書き写すことができない児童が多くいたが、回数を重ねるごとに視写のスピードが上がり、時間内に書き終わる児童が増えてきた。また、記事の内容も把握してタイトルを付けたり、気になるワードを調べたりすることができるようになってきた。

○見学遠足新聞づくり



タブレットを使って、見学遠足で学んだことを記事にまとめた。NIEの取り組みから、見たり聞いたりしたことをただまとめるのではなく、読み手を意識して、大事なことや伝えたいことを入れながら新聞を作ることができた。また、見出しや、トップ、カタ、ハラに分けて、記事をまとめることができた。

＜6年生＞

○記事を読み、考えたことを表現する

(1)「はなまるタイム」で、新聞記事を読み、自分の興味のある記事を選び、アイパッドで写真を撮る。

(2)木曜日の宿題でアイパッドを持ち帰り、自分の選んだ記事を読む。(わからない言葉を調べながら)

(3)次の「はなまるタイム」で記事に対するコメントを書き込み、見せ合う。

＜1学期＞

【戦争より文化で戦えばいい】

歌手・俳優の、美輪明宏さんは、1935年、長崎市生まれ。爆心地から3.9キロの自宅で被曝したそうです。美輪明宏さんは、「原爆が落とされた日は、夏休みで、雲一つ無いいい天気でした。宿題で絵を描いていて、ちょっと離れて絵を見ようとした途端、何かがピカと光って、その瞬間、世の中の音という音が全てなくなりました。そして、今度は世の中の音を全部集めたようなすごい音がして、家が揺れて、傾きました。隣町の防空豪へ避難するため、表に出ると、馬が横になって○んでいるんですよ。周りの人たちもワーワー叫んでいるんです。途中、誰かに「助けてくれ」と手を掴まれました。引っ張ったら、手や腕の肉がずるりと抜けたような感触がしました。手首についたそれを、夢中で、振り払ったことを今でも覚えています。」と言っていました。僕は二度と戦争をしたくないと思いました。

＜2学期＞

《要約》
2011年ごろに、北半球で急激な気候の変化「レジーシフト」というものが起き、北日本で近年猛暑が発生しやすくなったとの論文を、三重大と九州大の研究チームが発表したそうだ。2000年代までは冷夏が発生していた。それを解決するべく、チームは、過去65年間の北日本の夏の気温や、日本付近の高気圧の発生状況などを統計解析して行なったそうだ。

《感想》
私も、卒業論文で異常気象について調べました。なので、地球の問題やその問題を解決しようとするのがとても大変なこともわかりました。だけど、地球の未来のためにこれからも研究を頑張ってほしいです。

2学期は、記事の感想を書くだけでなく、記事の要約を書くように国語の時間を使って行った。「いつ、どこで、だれが、何を、どうした」を意識して記事を読んだり、要約を書いたりした。

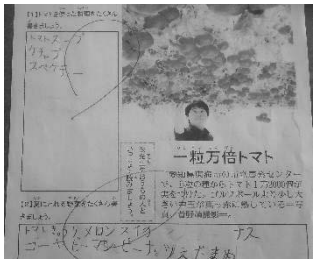
○新聞を使った図画工作活動

今まで読んだ新聞を使って、新聞タワーを班で「どれだけ高くできるか」を競いながら学習した。条件は、新聞と自分のテープだけを使うことのみとした。班ごとに、製作計画を立て、30分でどれだけ高くできるかを競った。ほとんどの班が、教室の天井につく程高くできた。試行錯誤しながら、楽しんで、新聞タワー作りに挑戦した。

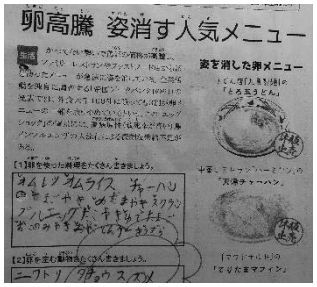
＜2・3・4年生＞

○ワークシート通信を利用した取り組み

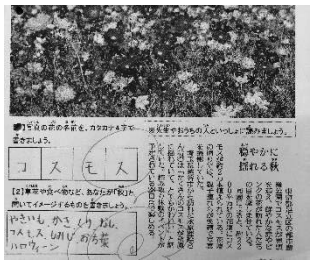
木曜日の朝 8:20～8:35 に設定されている「はなまるタイム」で、「読売新聞ワークシート通信」を活用し、新聞記事を読み、考えたことを交流する活動を行った。教科や難易度を選ぶことができたため、子どもの状態や関心に合わせて取り組むことができた。



自分たちが育てている
ミニトマトと比較して
読むことができた。



卵の価格が高騰すると
どんな影響があるのか
考えることができた。



「秋といえば」探しは
国語の俳句作りにも
つながった。

＜3・4・6年生＞

○やってみよう！切り抜き新聞

(1)体育館や集会室に新聞を広げ、気になった記事を切り抜く。
(2)レイアウトを考えながら台紙に貼る。
(3)新聞のテーマや記事感想を書き込む。

3・4年生は、床に新聞を広げ、気になった記事や広告をどんどん切り抜いた。切り抜く中で、自分の好きなことや今興味を持っていることが見えてきて、友だちと協力したり交換したりしながら楽しそうに記事を探していた。6年生は、「はなまるタイム」で行った新聞記事の交流を活かし、テーマを決めたうえで記事探しを行った。

文を書くことが苦手な児童も、記事自体にマーカーで線を引いたり貼り付けのレイアウトを工夫したりすることで、大きな負担なく世界に一つだけの新聞を作り上げることができて、満足そうだった。

3. 実践の振り返り

実践指定2年目の今年は、全校でNIEに取り組むことができた。低学年はまず新聞と触れ合う、中学年は小学生新聞から読んでみるなど、児童の状況に応じて、新聞に親しむことを第一に活動した。

【2年間NIEに取り組んだ6年生の感想】
- NIEに取り組むことで、新しい知識が取り入れられたから嬉しかった。
- ニュースではやっていなかったことが記事になっていて、世の中が今どうなっているのかに気づけてよかった。
- NIEを通して、文章を読むことも内容を把握することも速くなったと思う。
- 2年間NIEをして、前よりも文を正しくわかりやすく書けるようになりました。
- これからも新聞に触れて、新しい知識を取り入れていきたいと思います。

記事を要約し、友だちと紹介し合うという活動を通して、情報を読み取る力や文章力の向上を感じている児童が多くいた。2年間、プロの書いた正しい文章に触れたことや目的をもって記事を読んだこと、考えを伝えあったことで、着実に力が付いたのだと思う。感想から、子どもたちは新聞から情報を得ることを楽しんでいることが伺えたのが嬉しかった。「新しいことを知るのは面白い」という経験ができたことは、子どもたちの大きな財産になると思う。今後もより良いNIEの在り方を探っていきたい。

社会的事象を自分事として捉え、取り出した情報をもとに自分の考えを構築・再構築し、表現できる児童の育成を目指して

佐伯市立八幡小学校　教諭　高野 誠太朗

１．はじめに

本校の教育目標は、「確かな学力と豊かな心を身につけ、何事にも自ら考え行動できる児童の育成」である。昨年度の研究の反省から、本校の児童は、新聞記事から必要な情報を取り出すことはできているが、取り出した情報を基に自分の考えを構築することや表現することに課題があることが明らかとなった。そこで、今年度の研究を通して目指す子ども像を「社会的事象を自分事として捉え、取り出した情報をもとに自分の考えを構築･再構築し､表現できる児童の育成を目指して」と設定した。児童に付けたい力を明確にした NIE 活動の設定により、児童の変容を、１年を通して追っていく研究としている。

２．今年度の実践(NIE 活動)

①NIE ワークシート活用(週末課題)

必要な情報を取り出す力の育成をねらいとして、業者または広報委員会の発行する新聞ワークシートを週末課題として取り組ませる。

４～６年児童対象に、「いじめ」「自然災害」「平和」「環境保全」「キャリア教育」「安全指導」「情報モラル」「SNS 問題」「環境問題」「病気の予防」「資源」「食育」の計１２種類の記事を扱った新聞ワークシートを毎週金曜に週末課題として配布する。

１～３年児童対象に、広報委員会の作成する学校新聞を扱った新聞ワークシートや低学年対象に作成された新聞ワークシートを毎週金曜に週末課題として配布する。

②NIE タイム

社会的事象を根拠に、自分の考えを構築する力の育成をねらいとして毎週月曜の朝の時間に NIE タイムを設定する。

週末課題で扱った新聞ワークシートから、自分が考えを深めたり広げたりする切っ掛けとなった事象や文を選ばせ、そこから自分の考えたことや思ったことをワークシートにまとめ、ペアで交流をする。

③学級会議

話し合いの視点と扱う記事を照らし合わせながら自分の考えを構築・再構築する力を育成するために、学級会議を設定する。

毎月第３週の火曜７校時(八幡塾)の時間を使い、学級でテーマに基づいた話し合いの場を設定する。広報委員会の提示するテーマについて、その月に扱った新聞ワークシート２～３枚をもとに自分の考えをワークシートにまとめる。そして、学級で再度テーマについて、新聞記事を根拠とした意見を発表させ、考えを深めさせる。話し合いは意見者、意見支援者、投票者の３者にて話し合いを行わせる。

・意見者：テーマに沿って過去に扱った新聞記事を根拠とした意見を発表する。
・意見支援者：複数の意見からよい意見を選び、よいと感じた理由を発表する。
・投票者：意見者、意見支援者の話を聞き、自分が一番納得できた意見を選ぶ。

④八幡小子ども会議

話し合いの視点と扱う記事を照らし合わせながら自分の考えを構築・再構築する力を育成するために、八幡小子ども会議を設定する。

毎月第３週の木曜集会の時間を使い、学級会議と同様全校でテーマに基づいた話し合いを行う場を設定する。広報委員会が司会を担い、Zoom を用いて学級会議と同じ流れで話し合い、まとめる。
※感染症拡大防止のため Zoom にて子ども会議を行うが、第五類へ移行した際は、体育館で行う。

3．NIE 活動の検証について

(1) NIE 授業の単元設定

後期授業実践(令和６年１月２４日)では、第４学年国語科「C 読むこと」を中心指導項目として「私のお気に入りの記事を紹介しよう」という言語活動を設定した。これは、(2)アの言語活動例「記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動」を具体化したものであり、普段NIE 活動を通して触れている大分合同新聞の記事について、自分が気に入った新聞記事を見つけ、その気に入った理由が伝わるように、５年生に紹介するという言語活動である。

(2) 授業観察における視点について

視点１：意見交流により、自分の考えを再構築していこうとする児童の姿が見られたか。

視点２：研究主題に迫る、有効的な新聞活用ができていたか。

視点３：再構築の素地を育成する本校の NIE 活動は有効であったか。

(3) 検証授業から明らかになった成果

視点１については、ほとんどの児童が、友だちからの意見を基に自分の紹介原稿の書き直しを行っていた。第１回に行った実態把握のための授業では、グループで行う話し合いを自分の考えに反映させようとする児童が１３％しかいなかったことに比べ、本時では８８％の児童が友だちの意見を反映させようとしていたという結果であった。これは、今年度新しく設定した子ども会議(他者の意見を取り入れ自分の考えを持ち直す活動)が児童の再構築への意欲の向上に効果があったのではないかと考えられる。

視点２については、授業では大分合同新聞の発行する新聞記事から自分の興味を持った記事を紹介するという活動を設定した。NIE タイムでは、全国紙を扱った記事を中心にワークシートに取り組ませていたが、記事の内容が身近な事象であったことも児童の学習意欲に繋がったと考えられる。

(4) 検証授業から明らかになった課題

明らかになった課題として、意見の質が低かったことが事後研にてあげられた。これは、「国語科学習指導要領 C ア」(文章構造や内容の把握)の理解が十分でないことが原因であると考えられる。新聞記事に記載される主要な事例(見出しに関わる事例)を見つけることができなかったり、内容を読み取ることができなかったりすることで、記事の内容に関わる意見を出すことができなかったと考えられる。

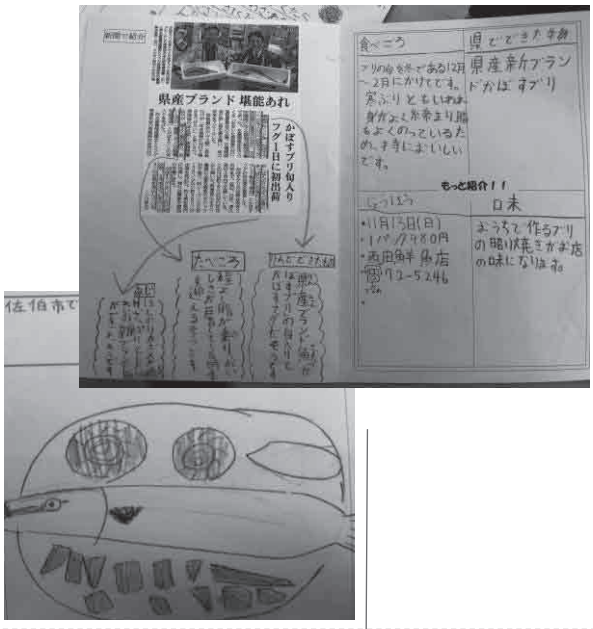
４．各教科における新聞活用実践例

活用例①：国語科「B 書くこと」

今年度は、本校児童の実態把握のために５月に国語科「B 書くこと」の単元の中で新聞を活用した。この単元では、「佐伯市のみりょくを東京アーティスツ合奏団に紹介しよう」という言語活動を設定した。これは、学習指導要領〔B 書くこと〕⑵アの言語活動例「調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動」を具現化し、自分たちの住む佐伯市のみりょくを他県・他市から訪れる人々に、リーフレットで紹介するという活動であった。東京アーティスツ合奏団は、令和５年５月～６月上旬までの期間に佐伯市の小学校で演奏することになっており、本校は令和５年５月１９日（金）に東京アーティスツ合奏団の演奏を鑑賞した。その際に、４年生の児童は東京アーティスツ合奏団にインタビューを行った。「他県から来る人々は佐伯市でどんなことをしてみたいのか」などについて事前調査を行い、リーフレットにどんな情報を載せたら喜んでもらえるかなどの話し合いを行い、１人１人がそれぞれのリーフレットを作成するという内容であった。佐伯市のグルメを紹介する新聞記事について、自分たちが紹介したい記事を選ばせ、必要な情報の取り出しを行った。

制作物①：佐伯名物ごまだしうどんを紹介するリーフレット

制作物②：かぼすブリを紹介するリーフレット



NIE ワークシートの取り組み方と同様に、新聞記事の言葉から、矢印をつなぎ、自分の伝えたい情報にまとめることができていた。

リーフレット作成に向け、児童は意欲的に学習に向かうことができていた。児童に「何を使って調べ学習をしていきたい？」と問うと、大半の児童がタブレット（インターネット）と答えた。情報を自由に投稿できる今の時代、調べ学習としては、便利なツールと言えるが、情報の信頼性に欠けていたり、ネットトラブルがあったりと、授業者の立場からは、積極的に活用させたいツールにはなっていない。しかし、新聞という信頼性の高い学習教材を活用することで、授業者も安心して授業を進めることができるという声も研修を通してあがった。また、大分合同新聞の発行する新聞記事は、地域に密着した内容がほとんどであるため、児童の興味・関心が湧きやすく、本単元においても多くの児童が、記事の写真や事象に能動的な反応を示していた。

5.研究を通して明らかになった新聞ワークシートと学力向上の関連性

第４学年～第６学年の佐伯市学力調査【C 読むことア】

R４年度第３学年	R５年第４学年
○叙述を基に段落の内容を捉えている 目標値：　80% 正答率：70.6% **目標値を下回った。**	○叙述を基に段落相互の関係を捉えている 目標値：　60% 正答率：61.5% **目標値を上回った。**
○叙述を基に文章の内容を捉えている 目標値：　80% 正答率：82.4% **目標値を 2.4%上回った。**	○叙述を基に文章の内容を捉えている 目標値：　55% 正答率：69.2% **目標値を 4.2%上回った。**
R４年度第４学年	**R５年第５学年**
○文と文との接続の関係を理解し、文章の内容を捉えている 目標値：　75% 正答率：76.5% **目標値を 1.5%上回った。**	○叙述を基に叙述を基に文章の内容を捉えている 目標値：　70% 正答率：82.4% **目標値を 12.4%上回った。**
R４年度第５学年	**R５年度第６学年**
○叙述を基に文章の内容を捉えている 目標値：80% 正答率：80% **目標値と同じ数値の正答率**	○叙述を基に文章の内容を捉えている 目標値：　60% 正答率：54.5% **目標値を下回った**
○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している 目標値：　50% 正答率：　55% **目標値を 5%上回った**	○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している 目標値：　50% 正答率：68.2% **目標値を 18.2%上回った**

今年度の NIE ワークシートは、学習指導要領国語科⑵情報の取り扱い方に関する事項アの定着を図るための新聞ワークシートを精選した。

国語科における知識・技能の十分な定着から思考・判断・表現の C アに変容が見られると仮説を立て、第４学年～第６学年を対象に取り組みを実施した。

左記に記した表は、C アに関する項目についてワークシートの改善を行う前の年度と改善後の年度の変容を検証するために、佐伯市学力調査の結果を抜粋したものである。

目標値を基準に分析すると、５項目中４項目が昨年度より、目標値を上回っていることが分かる。このことから、⑵情報の取り扱い方に関する事項アの定着に絞った新聞ワークシートを活用することに数値的効果が見られた。

また、B 書くことにおいても、６学年中５学年が、目標値、佐伯市の平均値をともに上回ることができていた。これは、新聞から自分の考えを書かせる新聞スピーチや情報の取り扱い方に関する事項の定着が要因であったと考えられる。

6．今年度の取り組みをふり返って

今年度で NIE 指定校を受けて３年目となり、ようやく学校の中での取り組み方が浸透してきた１年間であった。昨年度までは、「新聞をどのように活用するのか」という視点で、研修では議論を深め、活用の幅を広げていくことができた。今年度は、「何のために新聞を活用するのか」新聞を活用する目的に立ち返り、取り組み改善を行ってきた。各授業では、学習を深めたり、広げたりするために、新聞を教材として活用することは大変効果的である。しかし、児童が新聞に慣れ親しむための取り組みの、積み上げがなければ、授業の中で十分な新聞活用ができない。新聞を活用する目的と適切な活用方法について、今後も探っていき、新聞にしかない価値を生かした学習活動を仕組んでいきたい。

「新聞で学ぶ学校」づくり

～学校一丸！日常化の取り組みを通して～

竹田市立竹田南部中学校　教諭　佐藤美登里

（１）はじめに

本校の学校教育目標は「豊かな人間性を持ち、たくましく未来を切り拓く生徒の育成」である。その目標達成のための重点の一つに「NIE の推進」を掲げている。実践指定校として２年目を迎え、生徒の実態や状況を踏まえ、効果的かつ持続的な取り組みになるよう全教職員で実践を進めている。

（２）学校としての取り組み

①教職員の意思統一

・　年度当初の運営委員会や職員会議で、NIE の価値や手法について確認した。竹田市教育委員会のリードで、市内の全中学校でコラム学習に取り組んで４年経つこと、教職員の多くがその意義を体感していること、工夫をしながら継続していること等を説明し、取り組みの詳細を協議した。特に本校では全校挙げて日常化を図り、一定の成果を得ていることも紹介した。

・　国語科で生徒にレディネスアンケートを実施。家庭での新聞購読率や興味関心、読書の傾向、メディアやゲームとの接触等の項の集約結果を職員会議で紹介し、問題意識を共有。それらも踏まえ、NIE で育むべき力についても検討した。

↖授業にも活用

↑NIE の研修

←笑顔で準備

②環境整備

・　職員室入り口や通路壁面に「NIE コーナー」を継続して設置。「新聞一面読み比べ」「注目記事」「朝 NIE 関連」等も設け、毎日更新。

・　昨年度に続き、全校で毎週木曜日に取り組む「木考（「もくこう」。造語。）スクラップ」。専用コーナーを、各教室近くに常設。

↑「木考」終了１分前、各自で綴る。

（３）実践事例

1.　全校「朝 NIE」

①目的

新聞記事に出会わせることで、時事力や読解力、判断力や表現力を身につけさせる。秀逸な文章である新聞コラムの読解や、スクラップの活動を継続させることにより、言語感覚や感性を磨かせ、思考を深めさせる。

②方法

・　国語の授業で目的や方法を知らせ、練習をさせ、互いに交流させて動機付けをした。

・　３年生は年度当初から、１年生は後期から金曜日以外の週４回、２年生は週２回、朝自習の１５分間実施。

月・火・水は新聞コラムを読み解き、木は「木考スクラップ」に取り組む。

・　本年度は生徒会文化部が、「朝 NIE」全般の世話をしようと自発的に発案し、実行。

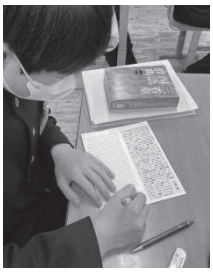
③効果

・１５分間、目的意識をもって臨み、読み書きのために大切な姿勢を維持することや、合理的な筆記用具の使い方にも慣れる。

・週４回行うことで習慣化し、生徒が自身の成長や取り組みの様子をメタ認知できる。

・新聞記事に触れ、視野や知見が広がる。

・テストでの記述問題の無解答率は極めて低くなり、記述に対する苦手意識が確実に小さくなることを生徒自身が実感できる。

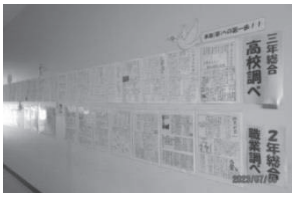


↑静謐な空気の中、辞書をめくる音、鉛筆が紙の上を走る音に教室が包まれる。表面を終えたら用紙を折り返して書き写し。１５分間で完結。各自でファイルに綴じる。

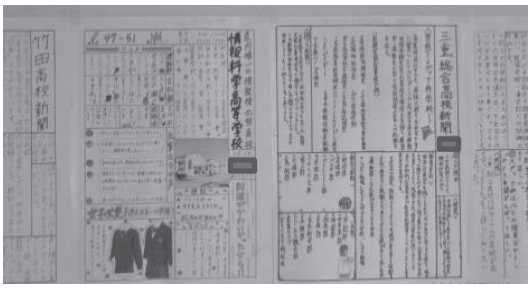
2.　教科・領域での取り組み

①6 月…３年総合的な学習の時間「高校新聞」

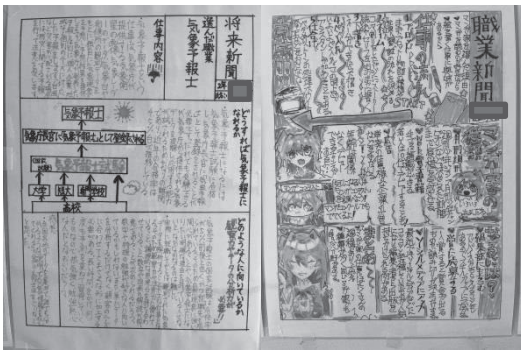
中学卒業後の自分の未来を具体的に描いた上で、興味や関心のある高校を任意で選び、調べ、インタビューしたことも材料にして、一枚の新聞に調えさせた。どのような視点で作るといいのかを考え、新聞の特性を考慮しながら作った。新聞作成の経験はあるものの、自分事としての切実感もあり、紙面づくりの難しさと面白さの両方を、これまで以上に感じていた。全て、廊下に掲示したところ、後輩たちからの反響も多く、達成感も味わっていた。



上段に 3 年生→40 人の「高校新聞」、下段に 2 年生 38 人の「職業新聞」が並び、キャリア教育の繋がりも見えて好評。

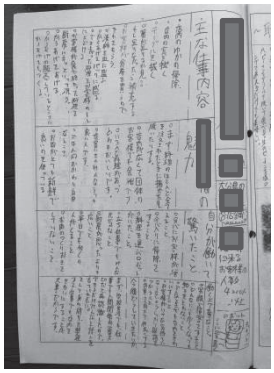


↑高校新聞。　　↓職業新聞



②7 月…２年総合的な学習の時間「職業新聞」

自分の気になる職業についてタブレットや図書で調べたり、身近な人にインタビューしたりして考えたことを新聞として完成させた。それらは廊下に掲示し、多くの人の目を引き、褒められ、生徒がとても喜んだ。また、期末ＰＴＡの授業参観で発表や交流をした。その後、職場体験学習を実施。その体験で



得たことを各自で新聞に調え、学年でまとめて冊子にした。生徒の満足感も大きく、互いの刺激にもなった。

③7 月～12 月…新聞関連のコンクールへの全校での挑戦

有益なコンクールに挑戦することを国語通信で発信した。国語の授業の中で時間を確保し、様々なコンクールに挑戦させてきた。「新聞配達に関するエッセーコンテスト」の中高生の部で３年の生徒が全国最優秀賞を獲得するという快挙を達成。合同新聞紙面で大きく紹介されたり、市報でも取り上げられたりして、反響が大きかったこともあり、全校への良い刺激となった。また、NIE に興味のある方々からの問い合わせもあり、喜びが連鎖した。

全校挙げての取り組みも２年目となり、生徒達には「この時期、挑戦するもの」として定着している。使いたい新聞記事は「立ち読み場」で自由に切り取って使わせた。

→大分合同新聞２０２３年１０月１７日（火）

（第３種郵便物認可）

広瀬さん（竹田南部中３年）新聞エッセー最優秀賞

素直な感性 "誇り"に感激

配達員への感謝と尊敬つづる

【竹田】日本新聞協会主催の第30回新聞配達に関するエッセーコンテストで、竹田市竹田南部中3年の広瀬凱聖さん（15）＝同市八井迫＝の「感謝と尊敬の気持ち」が中高生高門の最優秀賞を受賞した。自風の影響でけがをしながらも新聞を届けようと使命感に燃える配達員の姿から、自らも仕事に誇りを持てる人になりたい＝とつづった。

コンテストは新聞配達や販売所にまつわるいい話などを募集。マ大学生・社会人の中学・高校生マ小学生＝の3部門に全国から332名3点の応募があった。

広瀬さんのエッセー「バイクで配達中、側溝に転倒して足を骨折し母が勤務する病院に救急搬送された男性が、大けがにもかかわらず配達を代行してもらおうと仲間に電話していたエピソードを紹介。

その姿勢に感激し、新聞を届けてくれる人への感謝と尊敬の気持ちを強くしたことを記して「あの配達員さんのように仕事に誇りを持ち、行動する人になりたい」と締めくくった。

同校では週4回、朝に15分間、コラムや記事を読んで意見・感想文を書くといったNIE（教育に新聞を）活動に取り組んで

新聞配達員の姿から自らも仕事に誇りを持てる人になりたい＝と綴った凱聖さん

（第３種郵便物認可）

NIE実践指定校の竹田南部中

朝自習でマイ紙面

活字の力 2023 新聞週間 ＝上＝

竹田市君ケ園の竹田南部中（佐伯正敏校長、142人）は新聞を使った教育（NIE）に取り組んでいる。9月下旬、2年生の教室で生徒が慣れたようすで紙面を切り抜き、用紙に貼り付けた。記事の感想や意見も書き添えた。「配達員さんは雨の日も新聞を届けてくれる。いろんな職業の働き方に注目している」と理由を説明した。

同校は2年前、新聞社系列の大分合同新聞社（大分市）の協力を得て、スクラップを使った授業を始めた。コラムの要旨を抜き出すなど、毎朝15分間、生徒は思考力や表現力を磨いている。

9月下旬、2年生の教室で生徒が慣れたようすで紙面を切り抜き、用紙に貼り付けた。記事の感想や意見も書き添えた。「配達員さんは雨の日も新聞を届けてくれる。いろんな職業の働き方に注目している」と理由を説明した。

同校は2年前、新聞社系列の大分合同新聞社（大分市）の協力を得て、スクラップを使った授業を始めた。コラムの要旨を抜き出すなど、毎朝15分間、生徒は思考力や表現力を磨いている。

「読解力、表現力が向上」

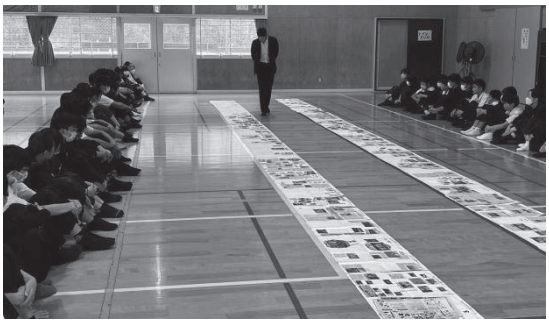
←大分合同新聞２０２３年１０月１２日（木）より「木考スクラップ」の継続も力に。

④7 月…全校防災教育「竹田水害を忘れない」

毎年、７月に設置。２０１２年７月１２日の竹田水害を報道した大分合同新聞（実物）と、自宅が被災した本校教師の撮った写真を展示。古い新聞の衰えないパワーや写真の力を毎回感じる。

⑤10 月…新聞出前授業

大分合同新聞社の佐藤良昭さんによる講話とワークショップ。新聞の作られ方や読み方等、分かりやすく深い語りに生徒も感じ入っていた。実際に切り抜き新聞を作り、交流したことで、モチベーションが更に高まった。



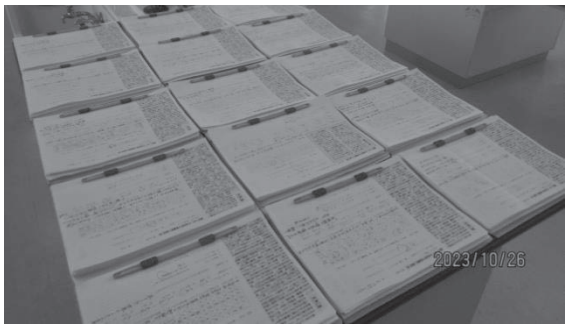
↑　記事について楽しく会話しながら仕上げた切り抜き新聞を並べて鑑賞。

↓　その日の午後、全て展示。壮観。

⑥10 月…文化祭での展示

朝自習がコラム学習の時は必ず個々で「NIE ファイル」にワークシートを綴じ、学年部担当職員を中心にコメント入れをすることを継続している。その全員の「NIE ファイル」を教科展示室に並べ、誰でも自

由にめくって見られるようにした。学年を超えて生徒同士で評価したり、刺激し合ったりする機会にもなっている。毎年、参観者からも好評。



← 全校生徒のNIEファイルを見た後、感想や決意を書く。これも切磋琢磨の場となる。

⑦通年…全校環境学習・平和学習

・道徳や総合的な学習の時間、平和学習等の授業でも多くの教師が適宜、新聞記事を活用。ゲストティーチャーの方々も新聞記事を用いて、リアリティーのある語りをしてくださる方が多い。

・朝日新聞社発行の「知る水俣病」「知る沖縄戦」「知る原爆」を本年度も活用。生徒にわかりやすく教師にも好評。

↑

←平和集会でも生徒が自発的に新聞を活用。

（４）実践の振り返り

年度当初に行ったレディネスアンケートや学年始めテスト、学力調査等を踏まえ、「読解力や表現力の向上について肯定的な回答をする生徒７０％」と、敢えてやや高めの目標値を設定した。その目標値を１学期末には84%、２学期末には93%と伸びていった。しかも４段階の評価形式で「はい」と回答した生徒が47%もいた。

２月初旬に実施した生徒アンケートの結果、「NIEによる変化が自分にありますか。」の問いに対して「はい」50.0%、「どちらかといえば『はい』」41.7%、「どちらかといえば『いいえ』」6.3%、「いいえ」2.0%であった。「NIEをやって良かったと思いますか」の問いに対して「「はい」54.5%、「どちらかといえば『はい』」40.9%、「どちらかといえば『いいえ』」4.5%、「いいえ」0.1%であった。それらの理由として以下のようなものが多かった。(生徒の文をそのまま引用。)

〇NIEをしなければ分からないままだった知識や情報を得ることができた。

〇漢字や言葉の知識が増えて、文章をすらすら書けるようになった。

〇何を読んでも、自分の考え、感想を持つようになった。気になったら調べてみてより詳しくわかったし、知らない漢字や言葉にもであえた。

〇新聞を読むのがだんだん楽しくなった。

〇書くスピードが一段と上がった気がします。

〇みんなが知らなかった情報があった場合は、雑談でああだ、こうだと意見を交流して、さらに深く考えられた。

▲朝にするのがいいところだろうけど、朝は頭が働かず、頭に入っている感じがしない。

ここでは割愛するが、3年生は全員がNIEの「効果を実感」「役立つ」「後輩にも続けてほしい」と回答している。

この一年、全校が一丸となって、継続して取り組んだことが生徒の意識や学力を確実に向上させたことを生徒も教職員も実感している。今後も生徒のために、より良い方策を考え、実践を重ねていきたい。

自分の意見を理由や根拠を添えて発表できる生徒の育成

日田市立前津江中学校　教諭　吉永 奏

1. はじめに

本校の学校教育目標は「ふるさとに誇りを持ち、主体的に学び、行動し、たくましく生きる生徒の育成」である。この目標を達成するための方策の一つとして NIE の取組を進めている。

今年度の重点目標の一つに「自己表現力の育成」がある。NIE の取組を通して、自分の意見を理由や根拠を添えて発表する力を育てたいと考える。これをふまえ今年度の実践テーマを『自分の意見を理由や根拠を添えて発表できる生徒の育成』とした。

≪NIE の取組で期待される力≫
①多様な文章や資料を読み解く力
②社会に目を向け、考える力
③情報を取捨選択できる力
↓
④表現力・説明力の向上

2. 学校としての取組

(1)環境整備

①新聞コーナーの設置(教室前廊下)

②毎週木曜日、帰りの学活後 15 分間を NIE の時間として設定。気になる記事について交流したり、後述する活動(切り抜き新聞など)を行ったりした。

〈成果〉

・空いた時間に新聞を読む生徒が見られた。また、新聞記事を通して、社会の変化に気づくきっかけになった。

・帯時間を設定したことで、昨年度より教職員全体で NIE の活動を進めることができた。

〈課題〉・充分な時間の確保が難しい。

(2)教職員向け新聞活用講座の実施(8 月)

NIE アドバイザーが来校。学校現場での新聞活用方法について学んだ。

【教職員・感想】

○新聞の活用例をいろいろな事例を挙げて紹介していただき、参考になった。新聞は読むだけでなく、新聞作りで活用することや、記事を授業でうまく使うことも NIE の 1 つなのだと思った。

○楽しく取り組んでいることをとても実感した。「さっそくやってみよう」と思う先生が多かったのではないかと思う。「はがき新聞」などできることで少しずつ取組、子どもたちに力をつけていきたい。

○できることから実践すべきだと思った。今後、何をどのようにできるかを会議で具体的に検討したい。

〈成果〉

・難しく感じていた NIE 活動の印象が、取組やすいものに変わった。

・教職員全体で共通の知識や認識をもつことができた。

3. 実践事例

A　出前授業「新聞の読み方講座」(5 月)

目的：新聞に対する興味・関心を持たせる。また新聞の読み方を身につけ、今後の活動に生かそうとする態度を育てる。

【生徒・感想】

今まで、新聞を読むことに少し抵抗がありました。でも、新聞の仕組みを知ると、たくさんの工夫があっておもしろかったです。それ

で、これから読んでみたいなと思いました。

私が特に心に残ったところは、新聞の文章の順番です。5W1Hのことは知っていたけど、一段落にその内容の骨組みを書いていることは初めて知りました。だからこれから新聞を作ったり、読んだりするときに意識して読んでみます。そして1日10分パラパラっと読むだけなら、私もできると思いました。新聞の良いところや新聞の構成のすごさがわかりました。

これから、新聞をたくさん読んでコミュニケーション能力をつけて、友達と楽しく話してみたいし、おじいちゃんやお母さんなど自分より年上の人たちともいろんなことを話してみたいと思いました。そして、自分でいろんな知識をつけたいです。

〈成果〉

・新聞に対する興味・関心が高まった。

・生徒が文章を読みとく中で、自分の思考を深められたり、ものの見方・考え方を構築したりすることができるようになった。

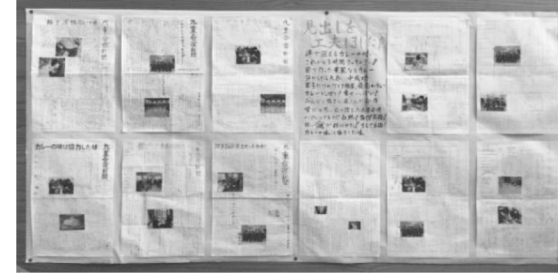
B　総合「九重合宿新聞の作成」(5～7月)

目的：総合的な学習の成果のまとめと発信

・1泊2日の教育合宿を通して学んだことや考えたことを1枚の新聞にまとめた。

・作成した新聞の工夫したところや見てほしいところを全校で交流。

・一人ひとりの発表に対して、生徒と教員からコメントをもらう。



C　国語科「コラム読書」

・月に2回

・対象：全校生徒

D　短学活「最近の気になるニュースを言おう」

・朝の学活

・対象：3年生

E　切り抜き新聞の取組(9～12月)

目的：記事に対する自分の考えを書く中で表現力を育てる。

・新聞を読んで気になる部分を切り抜き、テーマやレイアウトを考えて台紙に貼る。

・1人1枚作成、全校で取り組む。

・作成期間は教室横の廊下に日付ごとに大分合同新聞を並べた。

〈成果〉

・見出しの工夫やレイアウトで個性を表現することができた。

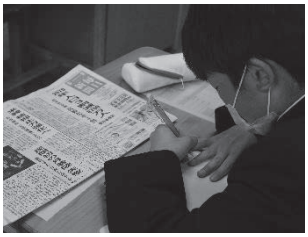
・普段よりもじっくり記事を読んで、自分の考えをまとめることができていた。

〈課題〉
・作成時間の確保。

F　新聞ワークシートの取組(1 月)
・NIE の時間
・対象：全学年

4. 実践の振り返りと今後の展開

(1)9 月と 12 月に生徒に、NIE の取組についてのアンケートを実施した。結果は以下(資料 1 参照)のとおりである。NIE の取組に対する関心が少しずつ高まり、自分の力を伸ばすために利用する生徒の割合が増えていることがうかがえる結果となった。



(2)9 月と翌年 1 月に、教職員に対して NIE の取組についてのアンケートを実施した。結果は以下(資料 2 参照)のとおりである。期待される力の育成に NIE の取組が貢献すると考える教員の割合が高かった。また「自分の考えを理由や根拠を添えて表現する力」については全員が肯定的評価をしており、その理由として「自分が興味のある記事を探したり、新聞を読む中でわからない語句について調べたりすることを通して、自分の考えに対する理由や根拠をより深く考えることができ、表現する力が自然に身に付くと思うから。」や「記事を読むことで、記者がどのように文章を作成し考えを述べているか知ることができ、根拠に基づいて表現することを自然と自分のものにすることができると思うから」などの意見が挙げられた。

(3)今年度の取組の成果と課題、今後の展開
〈今年度の取組の成果〉

・活動時間の枠を設定したことで新聞にふれる時間が確保できた。
・新聞つくりを通して、文章を整理する力や読解する力がついた。
・社会の情勢に目を向けさせることができた。

〈今年度の取組の課題〉

・制作物の作成をしたり、交流や振り返りをしたりする際に時間を確保することが難しい。
・NIE の取組があるから新聞を活用するのではなく、生徒が自ら主体的に新聞を活用し、期待される力を身に着けられるような働きかけが必要。
・政治や経済・国際関係についてはふれる生徒が少なかった。

〈今後の展開〉

NIE の取組を生徒に浸透させるためには、学校全体での時間の確保が必須だと考える。来年度も NIE の時間を帯時間に設定していきたい。スマホやパソコンから得られるニュースや情報は、使用者の趣味嗜好などで、表示されるものに偏りがあることから、新聞で様々な内容の活字を見ることは大事だと考える。どうすれば生徒が自ら主体的に新聞を活用し、期待される力を身に着けられるようになるか教職員間で意見を交わし、考えていきたい。

資料１：NIE(教育に新聞を)の取組についての生徒アンケート
※(　)内数値は 9 月から 12 月での変化した値

(1)NIE の取組で期待される力は、高まったと思いますか。(A：とても高まった、B：高まった、C：あまり高まらなかった、D：高まらなかった)　(人)

期待される力	A	B	C	D
①多様な文章や資料を読み解く力	6 (＋3)	4 (－2)	1 (＋1)	0 (－2)
②社会に目を向け、考える力	6 (＋1)	3 (－1)	1 (＋1)	1 (－1)
③情報を取捨選択できる力	4 (＋2)	6 (－1)	1 (＋1)	0 (－2)
④自分の考えを理由や根拠を添えて表現する力(表現力・説明力)	3 (－2)	7 (＋2)	0	1

(2)NIE の活動(学校で新聞を読んだり、意見を交流したりしたことなど)は自分のためになりましたか。
①とてもなった　7 人
②なった　3 人
③少しなった　1 人(＋1)
④ならなかった　0 人(－1)

(3)新聞はどのくらいの頻度で読んでいますか(学校での時間も含む。)
①毎日読んでいる　0 人
②ほぼ毎日読んでいる　3 人(＋1)
③あまり(１週間に２回程度)読んでいない　8 人(－1)
④読んでいない　0 人

(4)情報は主にどのように入手していますか。(最も利用しているものを 1、次が 2、次が 3 に丸をつけてください。)　(人)

メディア	１番目に利用	２番目に利用	３番目に利用
新聞	0	1(＋1)	3(－2)
テレビ	4(－2)	7(＋3)	0(－1)
スマートフォン	6(＋2)	1(－4)	3(＋3)
ラジオ	0	0	0
誰かに聞く	0(－1)	2	5(＋2)
その他(書籍など)	1(＋1)	0	0(－2)

資料 2：NIE(教育に新聞を)の取組についての教職員アンケート
※(　)内数値は 9 月から翌年 1 月での変化した値

(1)NIE の取組で期待される力の育成に、NIE の取組はどのように貢献すると思われますか。④については、選んだ理由を教えてください。(A：大いに貢献すると思う、B：貢献すると思う、C：貢献しないと思う)　(人)

期待される力	A	B	C
①多様な文章や資料を読み解く力	5 (-1)	3 (+1)	0
②社会に目を向け、考える力	6 (-2)	2 (+2)	0
③情報を取捨選択できる力	3 (＋2)	4 (+2)	1
④自分の考えを理由や根拠を添えて表現する力(表現力・説明力)	5 (－1)	3 (＋1)	0

令和５年度 NIE 実践報告

別府市立中部中学校　校長　佐藤　裕一
司書　山本　恭子

１、はじめに

ＮＩＥの実践として、「学校運営への新聞活用」「総合的な学習の時間（別府学）での活用」「図書館での活用」「図書館と連携した授業での活用」の４つの点から取り組むこととした。

１点目は、教育目標「夢をもち、自ら学び続ける生徒の育成」を達成するための学校運営のツールとして「新聞」を 活用すること。 ２点目は「総合的な学習の時間」において子どもたちの深い学びに繋げるために「新聞」を活用すること。3 点目は生徒の「言語活動の充実」のため図書館で「新聞」を活用すること。４点目は、図書館と連携した授業での活用である。

２、実践内容

（1）学校運営への新聞活用～新聞を活用する～

①新聞を活用した学校の取組の共有

本校では年間通じて学校教育目標達成に効果があり、話題性のある取組を実施している。その時に新聞社に取材依頼をし、紙面を通して地域や保護者へ学校の取組を知らせる。つまり、記事を通じて学校の取組を地域と共有するとともに学校への理解や協力を得る場としている。また、本校が取り上げられた新聞記事を、学校運営協議会の熟議資料として活用し、学校運営に生かしている。

資料１　熟議に活用した新聞記事１

2022年（令和4年）11月12日　土曜日　中部

自分の住む地域知って

別府、中部中生と自治会長らが交流

【別府】別府市の中部中（佐藤裕一校長）で4日、同校区の自治会長ら23人と1年生（145人）が交流する「地域とつながるドリームスクール」があった。

地域のつながりが希薄になっている今、自分たちが住む地域を知り、生きる力を養う目的で初めて開催。

地域住民の話を聞く生徒＝別府市の中部中

中部ひとまちまちまち協議会（幸勝美会長）と同校が初めて企画した。

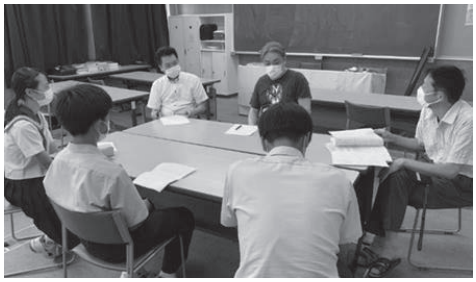
20グループに分かれて交流。自治会長らは地域の歴史や自身の中学生時代などについて紹介。勉強方法やストレスとの付き合い方など生徒が興味のありそうな話題に触れ、夢を持つことの大切さも伝えた。生徒はメモを取りながら熱心に聞き入っていた。

同校は学校教育目標「夢を持ち、自ら学び続ける生徒の育成」を掲げ、地域の先生による授業を教育課程に位置付けている。幸会長(67)は「今の子どもたちの考えを知ることにもつながった。これをきっかけに地域行事にも参加してほしい」と話していた。（佐藤弘子）

②学校運営協議会の熟議に新聞記事を活用

学校運営協議会では、昨年から熟議（意見交換）の時間を取り入れた。その熟議の資料としたのが新聞記事である。記者の方がプロの目線から、また、客観的な立場から学校の取組を書いた記事を熟議の資料として活用した。下は熟議の様子である。

写真１　新聞を活用した熟議



また、下は、地域連携にかかる取り組みで、令和４年度の文部科学大臣表彰を本校が受けた記事と地域とのつながりにかかる記事である。この記事を題材にして、生徒と学校運営協議会の委員で「中部中の子どもたちが地域とともに歩むために」とテーマで意見交換を行った。

資料２　熟議に活用した新聞記事２

別府・中部中が大臣表彰

地域と学校結ぶ

【別府】「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に取り組む別府市中部中（495人）の学校運営協議会（後藤和夫会長）が文部科学大臣表彰を受賞した。

同校は地域と学校の連携や協働を促進する市教育魅力化事業のモデル校として、地域と学校を結ぶコーディネーターを活用するなど実践を重ねている。協議会に地域住民が参加するなど、地域の人たちの生き方に触れる機会を設けている。協議会に地域学校協働本部を置き、キャリア教育を進め、生徒の居場所づくりなどをねらう「中部中応援プロジェクト」に取り組んでいる。

協議会の意義を高め、地域住民が先生になる「ドリームスクール」を教育課程に位置付けたほか、地域住民の呼びかけによる「放課後支援ルーム」、さまざまな講師のある生徒の保護者が語り合う「親の会」など多彩な取組を展開している。

後藤会長(61)は「生徒が地域の人たちの生き方に触れるなか、関わりも深くなった。活動の成果が認められうれしい。地域と学校をもっとつなげていきたい。

佐藤裕一校長は「学校の教育目標『夢を持ち、自ら学び続ける生徒』の達成に向け、協議会と共に取り組みを進めた。生徒が地域を支え、支えられているという実感が持てる活動を展開できた」と話している。（佐藤弘子）

中部中ドリームスクール CHUBU Dream School

②地域住民が先生になる「ドリームスクール」に参加した自治会長ら＝昨年11月
①地域の先生から職業について学ぶ中部中の生徒＝2021年

能登地震「被災地の役に」

生徒有志が募金活動

別府市中部中

【別府】能登半島地震の被災地を支援しようと、別府市中部中の生徒有志が、朝の登校時間を利用して、同中正門前で募金活動をしている。

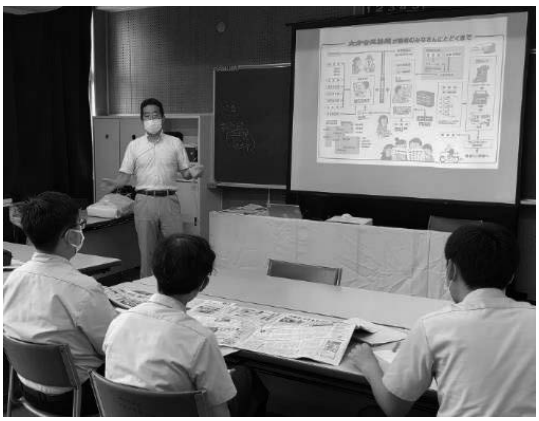
12日は生徒9人が参加。午前7時45分から約15分間、寄付を呼びかけた。登校中の生徒がお年玉、お小遣いや保護者から預かったお金を募金箱に入れると、

能登半島地震の被災地を支援しようと、募金活動をする生徒有志＝12日、別府市中部中

③中部中ﾄﾞﾘｰﾑｽｸｰﾙで新聞記者の講座実施
～新聞を製作する・新聞の機能を学ぶ～

中部中ﾄﾞﾘｰﾑｽｸｰﾙとは「地域の先生の授業」の総称である。本校では「社会に開かれた教育課程」を実現するために、年間を通じ「夢」をﾃｰﾏに 97 名の地域の先生の授業を展開している。その中で、大分合同新聞社記者の方に「新聞づくり講座」や「記者の仕事」をﾃｰﾏに講演していただく。それにより新聞への興味を喚起し、将来の職業としてのマスコミ関係への理解を深めた。また、本年度 7 月 8 日の 3 年生ﾄﾞﾘｰﾑｽｸｰﾙでは、16 人の先生を招いて小グループの講座を行った。講師として、大分合同新聞社地域連携室長の三股秀明さんをお迎えし、新聞社の使命ややりがいについてお話しいただいた。生徒は、新聞を前に真剣なまなざしで聞いていた。

写真２　「記者の仕事」をﾃｰﾏにした講座



（２）総合的な学習の時間「別府学」での新聞活用　～新聞を活用する～

総合的な学習の時間で組織的に新聞を活用する。ＮＩＥの日常化に向けて新聞は常に教職員が目に触れる場所に整理しおいている。また、１週間過ぎた新聞も先生方がいつでも活用できるように保管場所を明確にしておく。また、総合的な学習の時間においてＮＩＥの取り組みを計画的に、組織的に学年で取り組む。

教職員のなかには、総合的な学習だけでなく、自分の教科の授業で新聞を活用するという意識が高くなり、毎日、新聞を点検することが習慣化した教職員もでてきた。特に、社会科の教員は時事問題に関して新聞を活用して話し合い学習をさせるなど活用に幅が出てきた。

写真３　目に触れる場所に置いている新聞

（３）図書館での新聞活用～言語活動の充実～

言語活動の充実に向け、生徒が活字に親しめるように新聞の社説を活用する。図書館司書が国語科と連携して、生徒に新聞に親しめるように工夫をした。今話題の出来事と社説をつなげて紹介したり、社説だけが読めるようなコーナーをつくったり、と工夫した。おかげで昼休みは社説を読む生徒が増えてきた。また、学校の教育目標などの重点や、各行事などタイムリーな内容の記事を掲示するとともに関連書籍なども紹介している。

写真４　図書館の新聞コーナー

写真５　記事と関連のある書籍を展示

写真６　学校の教育目標に関連する記事の展示

写真７　社説の読み方をアドバイスした掲示

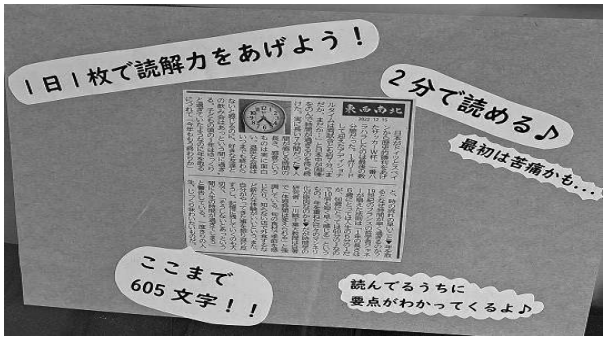


写真８　手に取って読めるようにした社説

写真９　社説をまとめたスクラップブック

資料３　図書館に新聞記事掲載の記事

大分合同新聞　2023年（令和5年）6月20日　火曜日

図書館に新聞記事掲示

別府市中部中　貸し出し実績伸びる

NIE エヌアイイー　教育に新聞を

【別府】別府市中部中（佐藤裕一校長、457人）は図書館の利用を促進するために新聞を活用している。生徒の関心の高そうな記事を図書館前に掲示するなど工夫することで、貸し出し実績が伸びている。

図書館の入り口付近の廊下には学校職員による手製の掲示板を設置。活躍中のスポーツ選手や資格取得に励む若者を紹介する記事を掲示している。長机を置いて関連書籍を展示し、大分合同新聞などと紙のコラムもスクラップにして並べた。

5月の全校生徒の貸出冊数は553冊で、前年5月度は活字に親しんでもらう目的で、図書館での新聞活用を始めた。

司書の山本特子さん（49）は「夢や生き方につながるタイムリーな記事は特に人気がある。受験や社会でも文章に親しむことは必須。新聞記事を読むことから読書につながるような取り組みをしたい」と話している。（佐藤弘子）

新聞を活用した図書館運営に取り組む別府市中部中。廊下には展示物が並ぶ

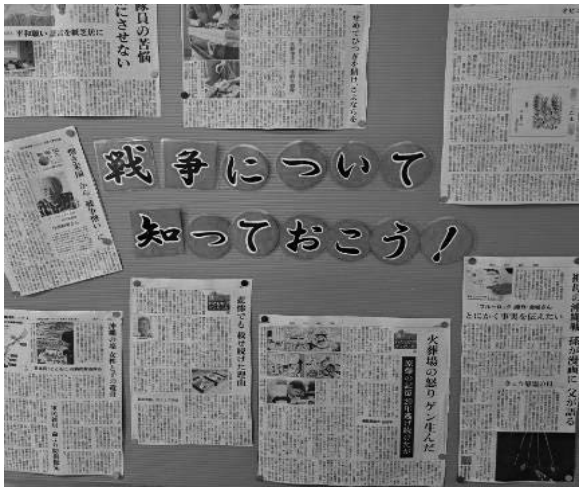
（4）図書館と連携した授業での活用

①平和授業での活用

平和授業において、平和についての記事を活用し授業を行うとともに、平和に関する社説と関連する書籍を紹介し、感想を書かせる。

写真１０　平和に関する社説と関連する書籍

写真１１　戦争関連の記事の展示



② 図書館と連携した国語科での取り組み

ア　朝自習の活用

「テーマごとにまとめられた社説」のスクラップブックや掲示されている社説のうち、生徒に深く考えさせたいテーマのものを朝自習で読ませ、感想文を書かせる取組を実施した。

イ　授業での活用

教科書の内容に沿ったテーマの社説を教材として授業を行った。

③ 不登校生徒へのオンライン授業での新聞活用

本校は、不登校生徒のうち、ほとんど学校に来ていない生徒に対してオンライン支援ルームと称して、毎日、朝の会から、授業配信、帰りの会を行っている。朝の会の折に、その日の気になるニュースを紹介し解説をした。不登校生の中にはこの解説で新聞に興味を示す生徒も出てきた。

写真１２　オンライン授業での新聞活用

３、成果と課題

図書館での新聞活用により、生徒が活字に興味をもてるようになってきた。特に、文字に親しませるためのさまざまな掲示を図書館にすることにより、全校生徒の５月の貸し出し冊数が、前年度は３８４冊から本年度８５３冊と倍以上に増えた。また、図書館で新聞を読む生徒が増えた。

進路学習に活かすNIE

私立大分高等学校 教諭

（１）序文

NIE実践は、本校における特進選抜コース、特進コース（以下、合わせて「特進」と呼ぶ）を対象に行うものとする。特進には１６７名（１年生５５名、２年生６２名、３年生５０名）在籍しており、少人数のクラス編成によるきめ細やかな指導を行うことで難関国立大学や有名私立大学への進学を目指している。

特進の生徒は大学進学を目標としており、それぞれに進路希望を決めてはいるが、その学問分野について詳しいわけではない。例えば薬学部に進学したいと考えていても、その生徒が薬学についての最新の動向や開発、研究について知っていることは少ない。大学で専門的に学びたい学問分野については自分から調べたり研究したりしていること望ましいが、そのような生徒はほとんどいないのが現状である。その原因として、自分が進学を希望する学問分野に対して憧れを持つことに留まり、より深く調べてみる「きっかけ」を持てずにいることがあると考えた。

本実践は、その「きっかけ」となるように、NIE教育を活用していくものとする。

（２）学校としての取り組み

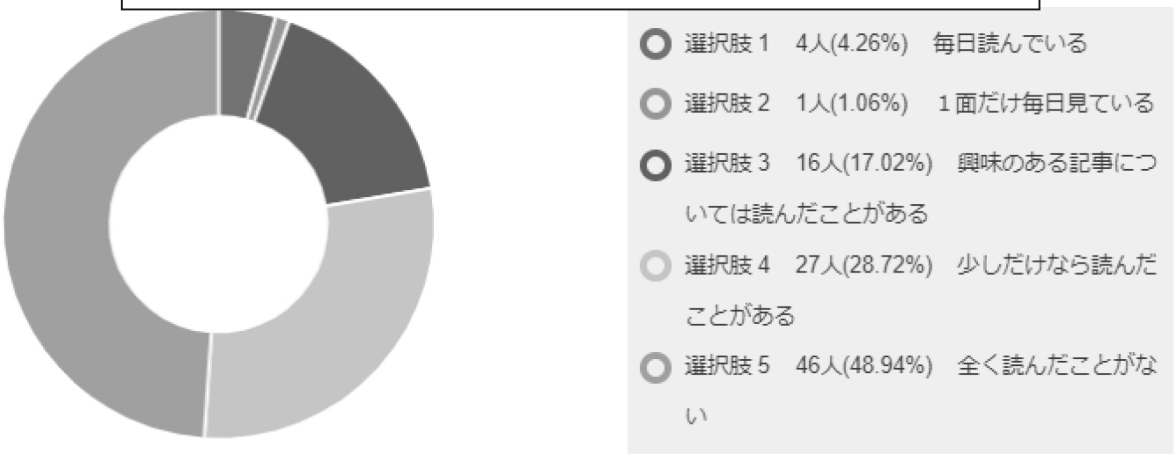
①　NIEコーナーの設置

特進校舎には昇降口に広めのフロアがあり、長机と椅子が置いてある。昼休みや休み時間の憩いの場となっていたり、放課後には保護者の迎えを待つ生徒がいたりする。

その一角に新聞を置き、自由に読めるようにしている。置いているだけではあるが、ふと新聞が目に入った生徒が、そこに座り、新聞を開く姿や記事について友人同士で話す姿が見られた。

生徒より「昇降口だけではなく、教室近くにも置いてほしい」という要望があったため、各階にもNIEコーナーを設置した。また「新聞は読んでみようと思っても、量が多くて読めない」という声もあり、NIEコーナーに「10秒だけ新聞を眺めてみよう」というポスターを作成し貼った。10秒眺めて見出しを読み、

＜アンケート１：NIEコーナーの新聞を読んだことがありますか＞



気になる見出しがあれば記事まで読んでみてほしいという趣旨を伝えたものである。そのポスターを掲示して以降、NIE コーナーに立ち止まって１面だけ眺めてみたり、そのまま新聞を読み始めたりする生徒が多く見られるようになった。アンケート１からも、約半数の生徒が NIE コーナーにて実際に新聞に触れたことがわかる。

②　社説の毎日配信

本校では生徒への連絡として classi というアプリを使用している。それを活用し、毎朝、社説を生徒に向けて配信した。classi には既読確認機能として「見ました」ボタンがあり、生徒がそこを押すことで、教員側がその配信を誰が見たのかを把握することができる仕組みである。それを活用し、配信初日に“読んだ生徒は「見ました」を押してほしい”ということを生徒にお願いした。それにより、日々、読んだ生徒数を確認しながら配信することができた。社説は各新聞社が HP に上げているものを活用し、新聞各社の中から担当がその日に読んでみてほしいものを選んだ。また同じ内容に対する数社の読み比べを意図した配信も行った。アンケート２から、８割以上の生徒が読んだことがわかった。しかし毎日３～４つの社説を投稿していたため、生徒から「量が多くて追い付かない」という声が上がった。実際、数多く配信した日はいつもより「見ました」ボタンを押した生徒も少なかった。今後は配信する量を調整し、生徒にとっても読みやすい配信を心がけていく。

③　新聞切り抜きを掲示板へ

本校ではポスターやネット記事等と一緒に掲示板に新聞の切り抜きを貼るなど、担当教員が掲示物を工夫し、様々なことに興味を持たせるよう活用している。

掲示板に貼るものはなるべく読みやすいものにするよう心掛けた。これは新聞に親しむきっかけにしてもらおうと意図したものである。また大分合同新聞社 NIE の HP で掲載されている新聞記事ワークシートも掲示物として活用させていただいた。貼っているワークシートとその問題を見て、答えを友達同士で話している姿が見られた。

（３）実践実例

①　時事ワークシート　対象：全員

朝日新聞社が販売している時事ワークシートを活用し、毎週土曜日の朝の時間を利用して取り組んでいる。金曜日に配布された記事を各自予め読んでおき、土曜日の朝にワークシートに取り組む。内容としては、記事の要

＜アンケート２：classi に配信されている社説を読んだことがありますか？＞

選択肢１　7人(7.53%)　毎日読んでいる
選択肢２　38人(40.86%)　興味のあるものは読んでいる
選択肢３　32人(34.41%)　読んだことはある
選択肢４　16人(17.2%)　全く読んだことがない

約文の穴埋め、キーワードの書き抜き、設定されたテーマに対する意見文を１００字程度で書くものとなっている。書いた後は教師が採点・添削し、返却する。新聞記事については理系/文系それぞれの生徒が興味を持ちそうな記事を偏らないよう、生徒にとっても読みやすく興味を持ちやすいものを選んでいる。またこれは小論文対策としても有効である。

この活動自体はこれまでも行われているものだったが、ワークシートを書き終えたらすぐに回収するので、友達がどのように書いたかを知ることがなかった。そこで書き終わった後に班の人と意見を共有する時間を取り入れた。同じ記事を読み同じテーマに対しての、友達と自分の意見の相違を知ることで、考えを深めることを目的としたものである。共有する方法は担任に任せたところ「近くの人と内容について話していたクラス」や「ワークシートを隣の席の人と交換して読み比べをした」クラス等、方法は様々であったがどのクラスでも共有する時間を取り入れることができた。

アンケート３によると、８割の生徒が肯定的な意見であることがわかった。また内容について近くの人と話す時間を設けているクラスを見学させていただいたところ、活発な意見交換が行われている様子が伺えた。

② 集団討論対策に新聞を活用

対　　象：推薦入試の受験を希望し、集団討論が必要となる生徒（高３）

実施期間：９月～１２月

２学期より放課後の時間帯を活用し、推薦入試対策としての面接練習と同時に行われるのが集団討論対策である。この集団討論の練習に、新聞記事を活用した。

(i) 根拠として新聞記事の紹介

“小学校における宿題廃止”をテーマにしたときの話である。生徒にとってそのようなことは考えられなかったらしく「宿題はあるべきだ」を前提とした討論となった。そこで担当より、小学校における宿題廃止を実践している学校の記事を紹介した。生徒にとって当たり前を見直すきっかけとなり、それ以降の練習では、テーマの出題意図や最近のニュースや動向などを意識したうえで討論をするようになった。

(ii) 読み込み型討論のテーマとしての新聞記事の提示

“医者の宿日直制度”をテーマにしたときの話である。宿日直制度に関する新聞記事を提示し、その記事をテーマとした討論をした。

＜アンケート３：時事ワークシートについて、共有タイムについてはどのように感じていますか？

- 選択肢１　27人(31.03%)　友達がどのように考えたか知れて楽しい
- 選択肢２　25人(28.74%)　友達が自分と違う考え方をしていて面白い
- 選択肢３　10人(11.49%)　意見共有で学んだことを、次の週に活かすことができる
- 選択肢４　9人(10.34%)　友達が自分よりも深い考え方をしていて、驚く
- 選択肢５　16人(18.39%)　自分の意見に自信が持てなくて、あまり人に知られたくない

制限時間を設けた中での読み取りは難しく討論にならなかったが、終了後の講評にて教師とともに丁寧に読み取りをしていく中で宿日直制度についての仕組みや懸念事項を理解することができた。資料を丁寧に読み込み、十分に理解して初めて討論に臨めることを再確認することができた。

（iii）参考資料としての新聞記事の提示

“部活動の外部委託化”をテーマにした時の話である。参考資料として渡した上で討論をした。生徒にとって馴染みの深い部活動についてのテーマであり、外部委託化についてもなんとなくは知っていたとのこと。しかし新聞記事を事前に読むことで、最近の動向をきちんと理解したうえで討論に臨むことができた。

実際に大学の推薦入試の集団討論でも資料として新聞記事が用いられており、今回の集団討論対策に新聞記事を活用したことは有効であった。

③　分高生のニュースそうだったのか

対　　象：高２

実施期間：１１月～１月

探究の時間を活用して、進路探究学習に新聞を活用した実践を行った。志望学部ごとにグループ分けをし、それぞれのグループで記事を１つ決め、その内容の解説授業を１年生に行うというものである。

記事を探す中で自分に志望学問分野における最新のニュースや動向を知り解説授業のための準備を行う中でより専門性のある知識を持つことができること、さらには自分自身が授業をすることを想定し「正しく」「わかりやすく」授業ができるように準備する中で理解が深まることをねらいとした。また、この取り組みが１年生の進路選択にも活かされるよう期待している。

【活動に対する感想】

（工学部系）燃料電池自動車の開発についての記事を扱ったのだが、その仕組みを調べていくうちに化学の授業で習った図や化学式、物理の授業で習った電子回路の図が出てきた。授業で習っていることが将来も使われていることがわかって、もっと勉強しようと思った。

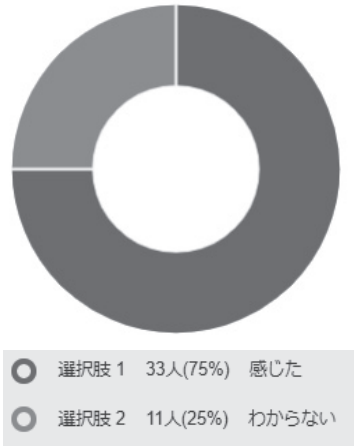
（経済系）為替取引を調べていくうちに、円高・円安が大事なことがわかった。授業でも円安や円高が輸出入に大きな影響を与えることは習ったが、そもそもなぜ円安や円高が起きるのかが分からなかった。そこで金利の話や日本やアメリカの金融政策によるものと知り、面白いと思った。一つのことを考えていると、他のこともっともっと知りたくなって調べるから、理解が深まった。

【新聞に対する感想】

・読んだら意外と面白いと感じる記事も多く、新聞やネットニュースを通じてもう少し世の中についての現状を理解していきたいと思った。

・テレビのニュースも分かりやすいですが、新聞では細かくゆっくり考えることができたので頭をつかっている感じがしてよかったです。

＜アンケート４：（２年生に対して）新聞を読むことの楽しさは感じましたか？＞



（４）終わりに

アンケート４より、２年生の７割は新聞の楽しさを感じることができたことがわかった。２年生にとってはこれからが進路の決定における大事な時期なので、この経験が活かされてほしいと願う。また２年生だけでなく、学校全体に関わる取り組みを増やして、日常的に新聞を開き、生徒自身が志望学問分野の知見を深めるきっかけを作っていきたい。

新聞を開き、未来を拓く

～新聞を通して社会を知り、主体的に探究する生徒の育成に向けて～

大分県立大分舞鶴高等学校　教諭　西 さおり

(1)はじめに

本校は「舞鶴魂『しまれ、がんばれ、ねばれ、おしきれ』を体現する」を学校教育目標として、「探究に向けた強固な学びの基盤づくり」「自ら問いを立てて、探究する力の育成」「何事にも粘り強く取り組む態度の向上」が図れるよう教育活動を行っている。今年度の重点目標の１つとして「生徒の課題発見・解決能力の向上」が掲げられており、NIE 教育に関してもここに明記されている。NIE 実践指定を活かした新聞・図書の活用による幅広い教養や奥深い専門性の育成を目指している。組織的に NIE 教育を進めていくために、今年度より校務分掌の中に、「図書館活用・NIE 教育推進班」が新たに設置された。

本校生徒の実際と教育目標を踏まえ、今年度も昨年度から引き続き以下の実践テーマと目標を掲げ、実践を行ってきた。

実践テーマ

新聞を開き、未来を拓く～新聞を通して社会を知り、主体的に課題を発見して解決の方策を考えようとする生徒の育成を図る～

NIE の目標

・実社会での諸現象や諸課題について考察するために必要な知識を身につける。

・多角的、複合的に事象を捉え、主体的に課題を発見して解決方策を考え、表現する力を身につける。

・課題解決や新たな価値の創造に積極的に挑み、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

(2)学校全体としての取り組み

前述した通り、本校では今年度より校務分掌の中に「図書館活用・NIE 教育推進班」が設置された。本年は分掌として動く初年度ということで、基本的にはこれまでの取組を継続することとして、学校全体の取組としては、「NIE コーナー」を設置し、加えて NIE コーナーのひとつとして「新聞を読もう」コーナーの新設を行った。また、各教科・教員が行っている新聞活用の実際の調査も実施した。

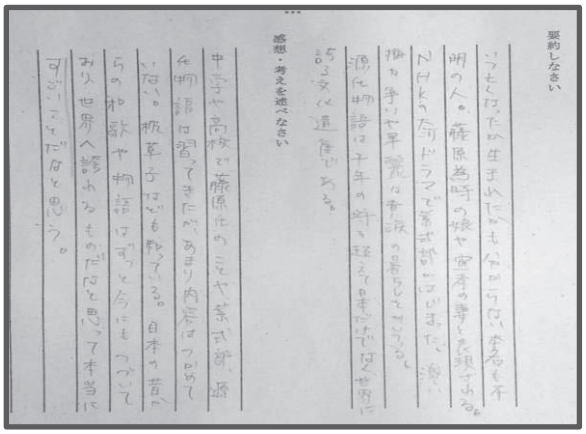
【「NIE コーナー」について】

①「一面読み比べ」および「コラム読み比べ」

この取組は本校が何年も継続している実践である。生徒が一番目にする機会の多い、生徒昇降口から教室への導線上に新聞各紙の一面を設置することで、見出しを目にすることで、その日話題のトピックを自然と知ると同時に、社会的事象に興味関心を持つきっかけづくりとしての機能も期待して設置している。

その隣に「コラム読み比べ」のプリントを置き、生徒は自由に手に取って読むことができるようにしている。読み比べることで、同じ話題

でも取り上げ方の違いがあること、物事は多面的であることを実感できるように工夫している。この「コラム読み比べ」は、３年生の文Ｉコース（私立大学進学を主に希望する生徒が所属するコース）では２年次から継続して行っており、今年度は２年生が学年全体として取り組んだ。



（2 年生での取り組み。要約と感想意見をまとめる。）

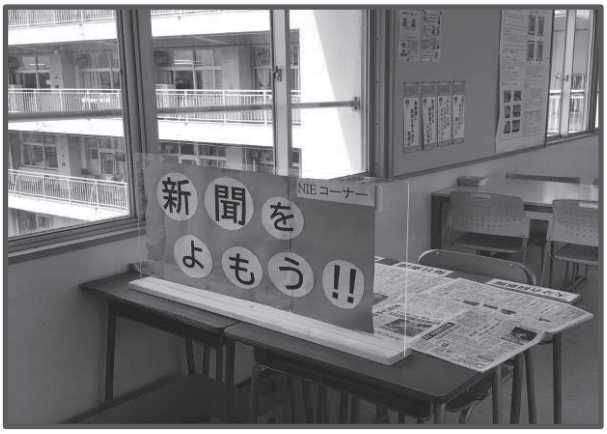
②「新聞アーカイブ」の設置

本校図書館ではテーマごとに分けられた新聞切り抜きのファイルが図書館入り口付近に設置されている。従来、受験期に小論文や面接のための知識を蓄積するために使用されることが多かったが、最近は探究活動で活用されることも多くなった。今年度もこのコーナーの切り抜きファイルから事例を調べ、それをもとにリサーチクエスチョンを立てたり、自分の論の根拠としたりして、思考を深めることに役立てた。

（探究の時間の様子。アーカイブを活用して調査）

③「新聞を読もう」コーナー

①②は、以前からの継続の取組であるが、今年度はそれに加えて、「新聞を読もう」コーナーを新設した。昨年度は、３年生共用スペースに新聞ラックを設置したが、今年度は校舎２階～４階のすべての階に「新聞を読もう」コーナーを設置して、全学年の生徒が新聞に親しめるようにした。新聞はたたまずに平置きし、椅子を置くことで、手に取りやすく、またじっくりと読むことができるスペースにしている。



(3)実践事例

今年度行った実践事例の中から次の事例を取り上げて紹介する。

【 国語・現代の国語(「書くこと」)における実践】

①概要

対象学年：高校１年

単元名：「目的に沿って表現の細部を整える」

学習材：山田登世子「贅沢の条件」

（筑摩書房『現代の国語』）

学習内容：

①教科書本文を読み「手仕事的時間」と「機械的時間」がどのようなものかを押さえる。

②二項対立の文章の特徴を理解してそれを活用した意見文を作成する。

③意見文を他者に添削してもらうことで自分の文章を客観視して細部にこだわった文章になるように推敲する。

学習内容②において、「手仕事的時間」と「機械的時間」の具体例を新聞記事から探して、意見文の中に取り入れるという活動を行った。

この記事は、（手仕事的）時間の例です。

ゆらゆら炎 何が見える？

うすき竹宵

臼杵市の秋を代表する行事「第27回うすき竹宵」が4日、市内二王座周辺で始まった。約2万本の竹ぼんぼりの柔らかな明かりが、城下町を包み込んだ。5日まで。

寺社の境内や駐車場など25カ所に竹のオブジェを設置。市内外の団体や学校、企業などが趣向を凝らして作ったオブジェがきらびやかに夜を彩った。

地元の伝説を再現した「般若姫行列」には多くの見物客が集まり、竹明かりに照らされた華麗な姿に引き込まれていた。久家の大蔵をはじめ周辺の各所で、ライブイベントや展示会、茶会などの催しもあった。

（衣笠由布妃）

この新聞の例は一言でいうと

（手作りオブジェの伝統行事）です。

この例に対立するものとして挙げられるのは、

（AIテクノロジーを使ったプロジェクションマッピング）です。

（新聞から事例を探してまとめる）

②生徒アンケートの結果・生徒の感想

【新聞を使った授業についてどう思ったか。】

よかった　95.3%

よくなかった　4.7%

【「よかった」理由を教えてください。】

（選択・複数回答可）

※選択肢および選択した人が多い項目順

- 記事を読むことでいろいろと考えることができた
- 記事を読むことで知識が増えた
- 記事を読まなければ気づかなかった具体例に気づくことができた
- 世の中の動きを知ることができた
- 時間がなくて読むことができなかった新聞を読むことができた
- その他

（自分で新聞をめくって探すのが面白かった。自分自身で情報を読み取って集中して思考できる時間になった。
新聞の面白さに気づけたから、家でも読んでみたいと思うようになった。）

【「よくなかった」理由を教えてください。】

（選択）

※選択肢および選択した人が多い項目順

- どの記事を選べばよいかわからなかった
- 新聞から適切な具体例を見つけることができなかった
- 記事を読まなくても具体例を考えることはできる
- ただ漫然と時間を過ごしてしまった
- その他

（記事を見つけるまで時間がかかった。）

【「感想および意見」より抜粋】

《授業内容との関連》

意外にも身近な例があることを知れた。
授業内容を日常の事に置き換えて考えることができた。
記事から具体例を探し、二項対立の文章を考えることは難しかったが面白く、教材の内容理解が深まった。
手仕事的時間より機械的時間の方の例が多いことを、記事を探す中で発見して、現在は本当に機械的時間に囚われているのだと実感した。
自分の語彙や知識では思い浮かばないアイデアを新聞から得ることができてよかった。

《新聞活用に関して》

指定された例を探していく活動はいつもとは違う視点で新聞を読むことになり、とても面白かった。
同じ話題でも新聞社によって内容や見出しが違うのが面白い。見出しの重要性がわかった。
必要な情報を抜き出し、端的に文章をまとめる力がついた。
久しぶりに新聞をじっくり読んで、「物語的時間」を体感できた。
インターネットで調べるよりも時間はかかるが、その分他のいろいろな知識をついでに取り入れられたのでよい。
１日のニュースがまとめられた新聞の方がスマホでいろいろ見るより実は効率的だと実感した。
情報収集力や速読力がつくと思った。

③実践を終えての成果と課題

生徒には非常に好評であり、またやりたいという声が多かった。社会的事象との関連を自身で探すことにより内容理解の深化ができたこと、さらに現代社会の実態と問題にまで思考を働かせることができた生徒もいたことも成果の一つである。たくさんの情報の中から自分が必要なものを峻別する難しさと面白さを実感している様子が見られ、今後の生活や受験に活かすことができる取り組みになったのではないかと考える。

今回のように教科のある単元での取り組みは、なかなか広がりを持たせられないのがやはり課題だ。新聞から社会を知り関連事項について調べてみる、得られた知識から問題点を探り、その解決方法について自分なりの考えを深める、という一連の流れを日常の中で行えるようになってほしい。そのためにも単発の取組ではなく、他教科とのつながりや他のNIE活動とのつながりを持たせた計画を立てる必要性を感じた。

(4)今後の課題

各教科・教員が行っている新聞活用の実際の調査も実施した結果、今年度、９教科中４教科（国語・家庭科・情報・地歴）が新聞を活用した授業を行ったことがわかった。加えて前述した通り探究の時間にも活用しているため、多くの生徒・教員がNIEに携わっていると言える。

活動を通して、ともすれば狭い世界に生きる生徒が社会に目を向けるきっかけとなり、それを自分の興味関心や進路目標へとつなげられているのではないかと感じている。特に、昨年度までは新聞を活用せずに行っていたディベートや課題研究のテーマ決め（１年生「SSH探究」）にも活用できたことは、生徒の視野を広げるという意味で大きかったと感じる。

反面、（３）の成果と課題で述べたように、社会を多角的に見ることで問題点や疑問点を見つけ、それについて主体的に調査し、自分なりの視点を探ることを日常的に行うまでには至っていない。「新聞を活用する単発の授業や活動」で終わるのではなく、それを次につなげる工夫を行いたい。「NIEコーナー」の充実や見直し、教科を横断した取り組みなど、次年度はより生徒の自発的な行動を促す取組を実践していきたい。

2023年度大分県ＮＩＥ実践指定校

校種	学　　校	学　校　長	実践代表者	指定年度
小学校	中津市立小楠小学校	髙山　ゆかり	岩男　拓哉	2023
	大分市立城南小学校	吉永　公一郎	大津　友香	2022
	佐伯市立八幡小学校	広津留　智	高野　誠太朗	2021
中学校	別府市立中部中学校	佐藤　裕一	佐藤　裕一	2022
	竹田市立竹田南部中学校	佐竹　正敏	佐藤　美登里	2022
	日田市立前津江中学校	梶原　英幸	吉永　奏	2022
高校	大分県立大分舞鶴高等学校	加藤　寛章	西　さおり	2015
	大分高等学校	小山　統之		2023

2023年度大分県ＮＩＥ推進協議会の活動

１学期 ～夏休み	第14回「いっしょに読もう！新聞コンクール」募集	9／9	第120回ＮＩＥ実践研究会 in 印刷センター
4／8	第115回ＮＩＥ実践研究会　第34回事務局会	10／14	第121回ＮＩＥ実践研究会　第37回事務局会
5／20	第116回ＮＩＥ実践研究会 in印刷センター	11／11	第122回ＮＩＥ実践研究会 in 印刷センター
6／10	第117回ＮＩＥ実践研究会　第35回事務局会	11／15	第73回「県学校新聞コンクール」出品締め切り
6／15	ＮＩＥ推進協議会総会	12／5	第73回「県学校新聞コンクール」審査会
６月	第73回「県学校新聞コンクール」募集開始	12／9	第123回ＮＩＥ実践研究会　第38回事務局会
7／8	第118回ＮＩＥ実践研究会 in印刷センター	12／12	第14回「いっしょに読もう！新聞コンクール」地域独自表彰発表
8／3.4	第28回ＮＩＥ全国大会松山大会（愛媛県松山市）	1／13	第124回ＮＩＥ実践研究会 in 印刷センター
8／18	県ＮＩＥ実践懇談会	2／10	第8回ＮＩＥ子ども会議（第125回ＮＩＥ実践研究会）
8／19	第119回ＮＩＥ実践研究会　第36回事務局会	2／20	県ＮＩＥ実践報告会
9／8	第14回「いっしょに読もう！新聞コンクール」出品締め切り	3／9	第126回ＮＩＥ実践研究会 in 印刷センター

【県ＮＩＥ実践研究会】全国大会報告会を開催、子ども会議も充実

昨年度に続き、偶数月は大分合同新聞社本社で講演会・実践報告・ワークショップを開催。奇数月は大分合同新聞社印刷センターで「すぐに授業で使える新聞ワークシートづくり」を実施。新規の実践指定校の教員も積極的に参加し、地域や社会、災害報道の記事などから、授業に役立つワークシートづくりを行い意見交換した。

８月には、松山市で開かれたＮＩＥ全国大会の参加者５名から報告発表を行った。

大会テーマの「ICT でひらくＮＩＥ新時代」に沿って、それぞれの立場や視点から、タブレット端末が普及した現在の学校現場におけるＮＩＥ活用についての学びを共有した。紙と ICT のバランス、リアルな体験に基づく言語教育や社会意識の醸成などについて活発な意見交換も行われた。

また、６月に県立芸術緑丘高校の西村和文校長から大分合同新聞社掲載の新聞小説と連携した「GIN プロジェクト」について、10 月には玖珠町教育委員会の衛藤公彦 GIGA スクール推進室長から、同町の ICT を活用した教育について講演いただいた。それぞれ、社会と教育をつなげる先駆的な取り組みが紹介され、多くの学びが得られる場となった。

12 月は堀泰樹県推進協議会長が「学びを深めるための『新聞』活用」と題し、ＮＩＥの歴史や学習指導要領における位置づけ、授業での活用ポイントなどを講演し、参加者とＮＩＥの基本についてあらためて学んだ。

そして２月には、恒例となった「第８回ＮＩＥ子ども会議」を開催。教育関係者や家族が会場で見守る中、小４から高校２年まで５名の児童・生徒が堂々とした発表や鋭い意見交換を行った。「楽しい授業」「リアルなところがいい」「主体的、能動的に取り組めた」といった発言があり、子どもたち自身もＮＩＥの効果を自覚できている姿が伺えた。

大分県ＮＩＥ推進協議会　会則

第１条（名称）　本会は、大分県ＮＩＥ推進協議会と称する。

第２条（目的）　本会は教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して教育内容を豊かにするとともに、情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。

第３条（事業）　本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
○ＮＩＥ実践指定校・実践者を選定し、日本新聞協会に推薦
○ＮＩＥ実践指定校・実践者の支援、助成
○ＮＩＥに関する研究会の開催、実践報告書の作成
○ＮＩＥに関する普及、啓発活動
○その他、本会の目的達成上必要と認めた事項

第４条（会員）　本会は本会の目的に賛同する次に掲げる者で構成する。
○大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県立学校長協会、大分県中学校長会、大分県小学校長会、大分県私立中学高等学校協会の各代表
○ＮＩＥ実践指定校の代表
○大分県報道責任者会加盟の新聞・通信８社（朝日、大分合同、共同通信、時事通信、西日本、日経、毎日、読売）の各代表
○その他、本会で必要と認める団体・個人

第５条（顧問）　本会に顧問を置くことができる。顧問は本会の目的達成のため助言をする。

第６条（役員）　本会は次の役員を置き、総会において会員の中から互選する。
○会長　　１人
○副会長　　若干名
○委員　　若干名
○監査　　２人

役員の任務は次の通りとする。
〇会長は本会を代表し、会務を総括する
〇副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは職務を代行する
〇委員は会務を処理する
〇監査は会計を監査する
役員の任期は１年とし、再任を妨げない。

第７条（総会）　本会は年１回定期総会を開く。
〇総会は会長が招集し議長となり、事業計画、運営に関することを決定する
〇その他会長または会員の多数が必要と認めた時に、臨時総会を開くことができる

第８条（委員会）　委員は必要に応じ委員会を開く。委員会は事業計画の遂行に必要な事項を協議、決定する。

第９条（経費）　本会の運営に関する経費は、加盟する新聞・通信社の会費および個人・団体からの補助金、その他の収入を充てる。会費は新聞社が年額６万円、通信社が３万円とする。

第 10 条（事務局）　本会の事務局を大分合同新聞社内に置く。

第 11 条（実践研究会）　NIE 推進のためのワーキンググループとして小中学校、高校、特別支援学校の教員等による大分県 NIE 実践研究会を置く。

第 12 条(事業年度)　本会の事業年度は毎年４月１日から、翌年３月３１日までとする 。

第 13 条（補則）　この会則に定めるもののほか、本会に必要な事項は別に定める。

付則　本会則は 2010 年６月４日から実施する。
改定　2013 年６月 11 日
2015 年 6 月 22 日
2022 年 6 月 3 日

2023年度大分県ＮＩＥ推進協議会役員等

＜顧　　問＞　岡本天津男　大分県教育長
　　佐藤　光好　大分市教育長
＜会　　長＞　堀　　泰樹　大分大学名誉教授
＜副 会 長＞　清永　伸一　大分県立中津北高等学校長(県立学校長協会代表)
　　工藤　俊郎　大分市立明野西小学校長(県小学校長会代表)
　　河野　正行　大分市立稙田中学校長(県中学校長会代表)
　　小山　康直　大分高等学校理事長（県私立中学高等学校協会長）
　　加藤　寛章　大分県立大分舞鶴高等学校長(実践指定校代表)
　　下川　宏樹　大分合同新聞社上席執行役員編集局長（新聞・通信社代表）

＜委　　員＞　山田　誠司　大分県教育庁高校教育課長
　　小野　勇一　大分県教育庁義務教育課長兼幼児教育センター所長
　　江隈　英明　大分市教育委員会学校教育課長
　　荒木　隆則　時事通信社大分支局長（監査）
　　久保　祐一　共同通信社大分支局長（監査）
　　西山　忠宏　西日本新聞社大分総局長
　　松尾　哲司　日本経済新聞社大分支局長
　　久保田修寿　毎日新聞社大分支局長
　　古田　智夫　読売新聞社大分支局長
　　高嶋　　健　朝日新聞社大分総局長

＜ＮＩＥアドバイザー＞
　　永松　芳恵　臼杵市立佐志生小学校長
　　平山　立哉　大分市立別保小学校教頭
　　安東　浩子　豊後高田市立都甲中学校教頭
　　佐藤美登里　竹田市立竹田南部中学校教諭
　　田邉　玲子　日田教育事務所次長
　　佐田　香織　佐伯市立彦陽中学校教頭
　　佐藤由美子　大分大学教職大学院特任教授
　　塩川　美紀　元教諭
　　小坂　吏香　大分県立佐伯豊南高等学校教諭

＜事 務 局＞　事務局長　　三股　秀明　大分合同新聞社総合企画局地域連携室長
　　事務局次長　佐藤　良昭　　〃　　地域連携室マネージャー
　　事務局員　　百崎　浩嗣　　〃　　地域連携室
　　〃　　原田　宏一　　〃　　地域連携室
　　〃　　瀧本　詩乃　　〃　　地域連携室
　　〃　　小代　純子　　〃　　地域連携室
　　〃　　田口　麻加　　〃　　地域連携室

＜発行＞2024 年 4 月
大分県NIE推進協議会事務局
〒870-8605　大分市府内町 3－9－15（大分合同新聞社内）
☎097-538-9729　fax097-538-9810　✉nie@oita-press.co.jp